

2. 環境問題への取組に関する意識（問 2）

2-1 環境問題への取組に対する考えや意見(問 2-1)

環境問題への取組に対する考えや意見については、肯定的な回答が多く、ほとんどの項目で 9 割を超えている。

環境問題への取組に対する考えや意見については、ほとんどの項目で「そう思う」（「大変そう思う」、「ややそう思う」の合計）との回答が 9 割を超えており、環境問題に対する取組に対して肯定的であることがうかがえる。

平成 20 年度調査結果と比較すると、「環境に配慮した製品やサービスを選ぶことは重要である」が 91%と 8 ポイント上昇した。平成 21 年 7 月からスタートしたグリーン家電普及促進事業（エコポイント）等の環境に配慮した製品やサービスの選択を促進する施策により、関心が高くなったことも一因と推測される。

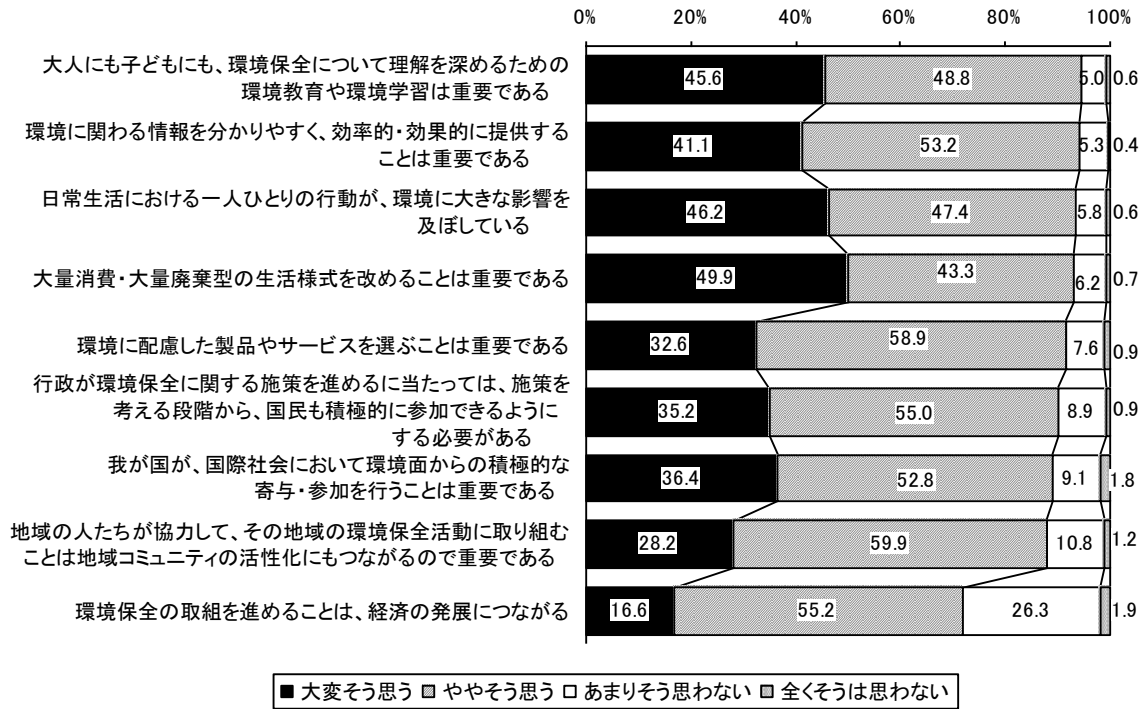
一方、「我が国が、国際社会において環境面からの積極的な寄与・参加を行うことは重要である」「地域の人たちが協力して、その地域の環境保全活動に取り組むことは地域コミュニティの活性化にもつながるので重要である」では肯定的な意見が若干減少傾向ある。

性別では、すべての項目で女性のほうが環境問題への取組に対して肯定的であることがうかがえる。特に、「日常生活における一人ひとりの行動が、環境に大きな影響を及ぼしている。」「環境に配慮した製品やサービスを選ぶことは重要である。」では、女性のほうが男性よりも 5 ポイント以上高くなっている。

年代別にみると、60 代では、「環境に配慮した製品やサービスを選ぶことは重要である。」が 96%と全体よりも 5 ポイントほど高くなっている。また、「日常生活における一人ひとりの行動が、環境に大きな影響を及ぼしている。」では 40 代、50 代、60 代、70 代以上は 95%以上であるのに対し、20 代、30 代は 90%以下と年代によって意識の違いがみられる。

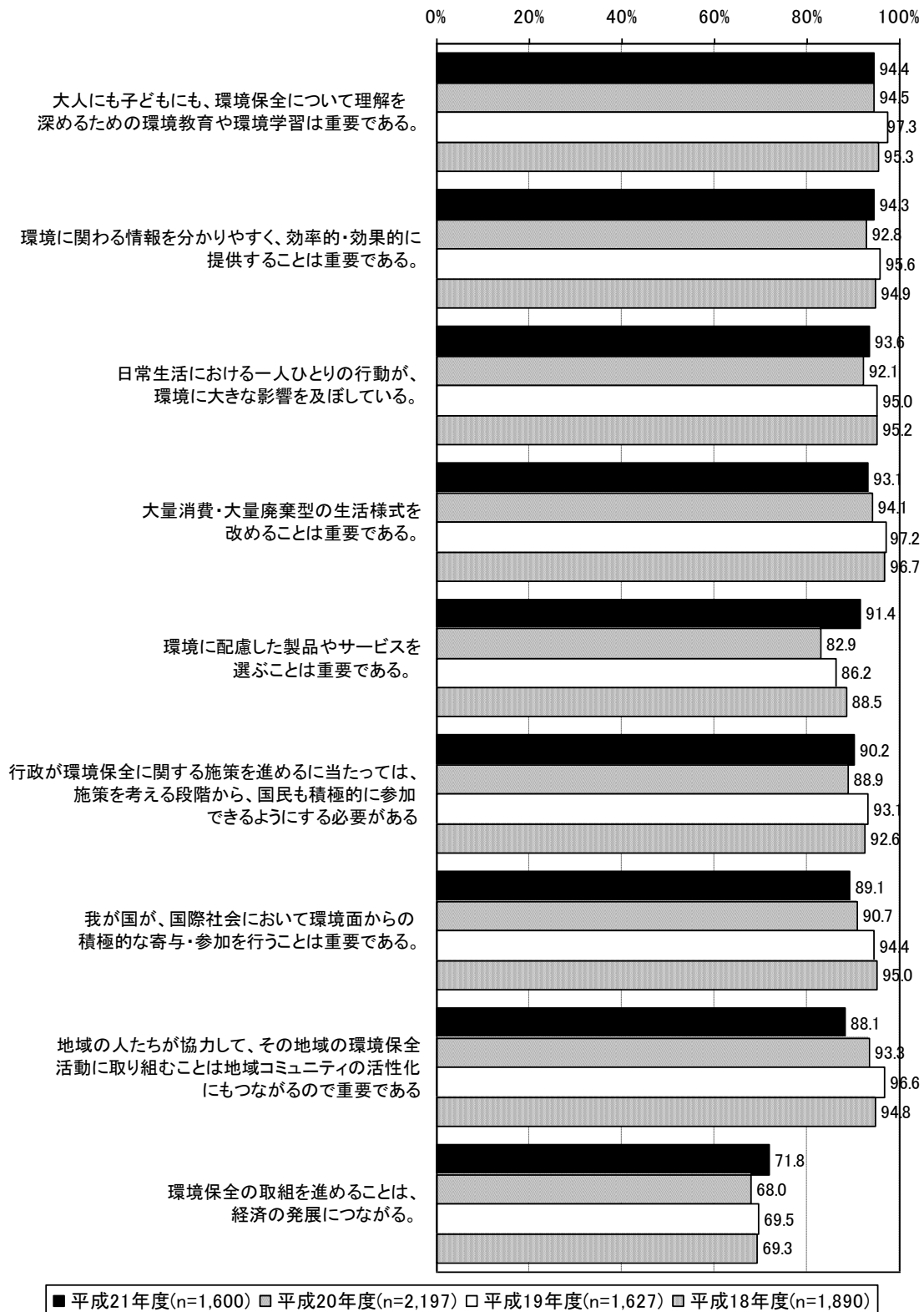
地域別では、近畿、九州・沖縄において、「日常生活における一人ひとりの行動が、環境に大きな影響を及ぼしている。」が 97%以上と全体よりも高い傾向がみられる。一方、中国・四国では「我が国が、国際社会において環境面からの積極的な寄与・参加を行うことは重要である。」が 84%と全体よりも 5 ポイント低く、「行政が環境保全に関する施策を進めるに当たっては、施策を考える段階から、国民も積極的に参加できるようにする必要がある」に関しても、九州・沖縄と比べ 10 ポイント以上低い結果となっている。

図表 2-1 環境問題への取組に対する考え方



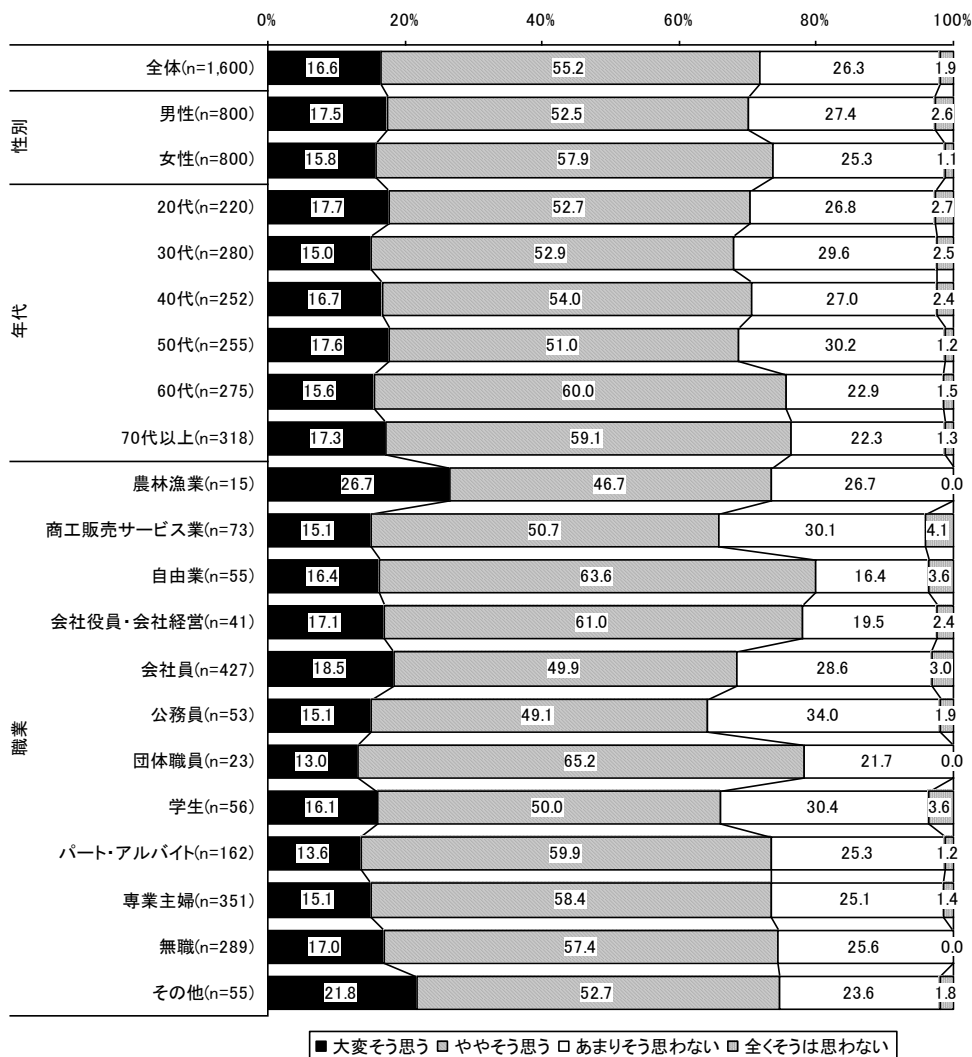
図表 2-2 環境問題への取組に対する考え方（時系列）

（「大変そう思う」、「ややそう思う」の合計）

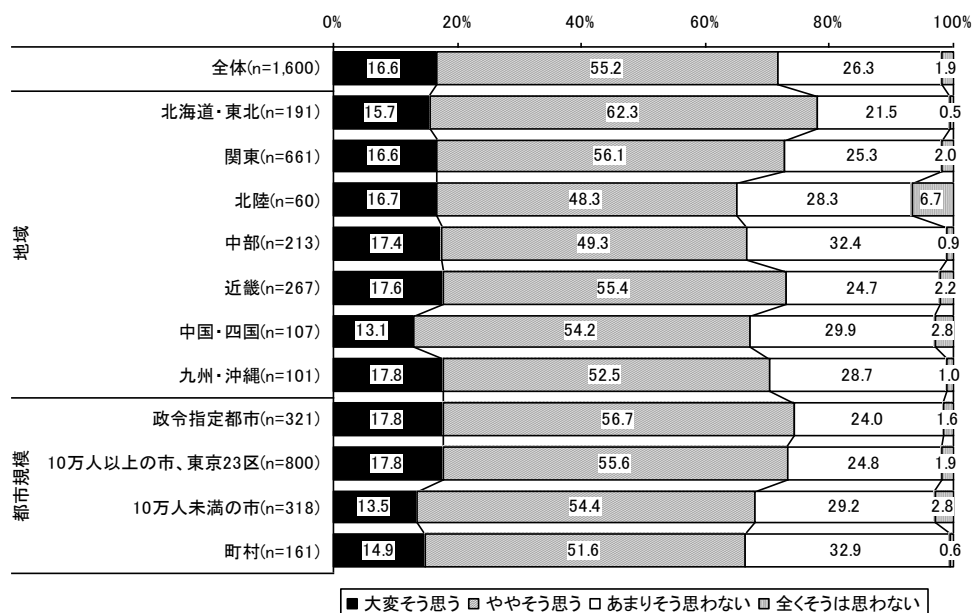


環境問題への取組① 環境保全の取組を進めることは、経済の発展につながる

図表 2-3 環境問題への取組①に対する考え方（性別、年代別、職業別）

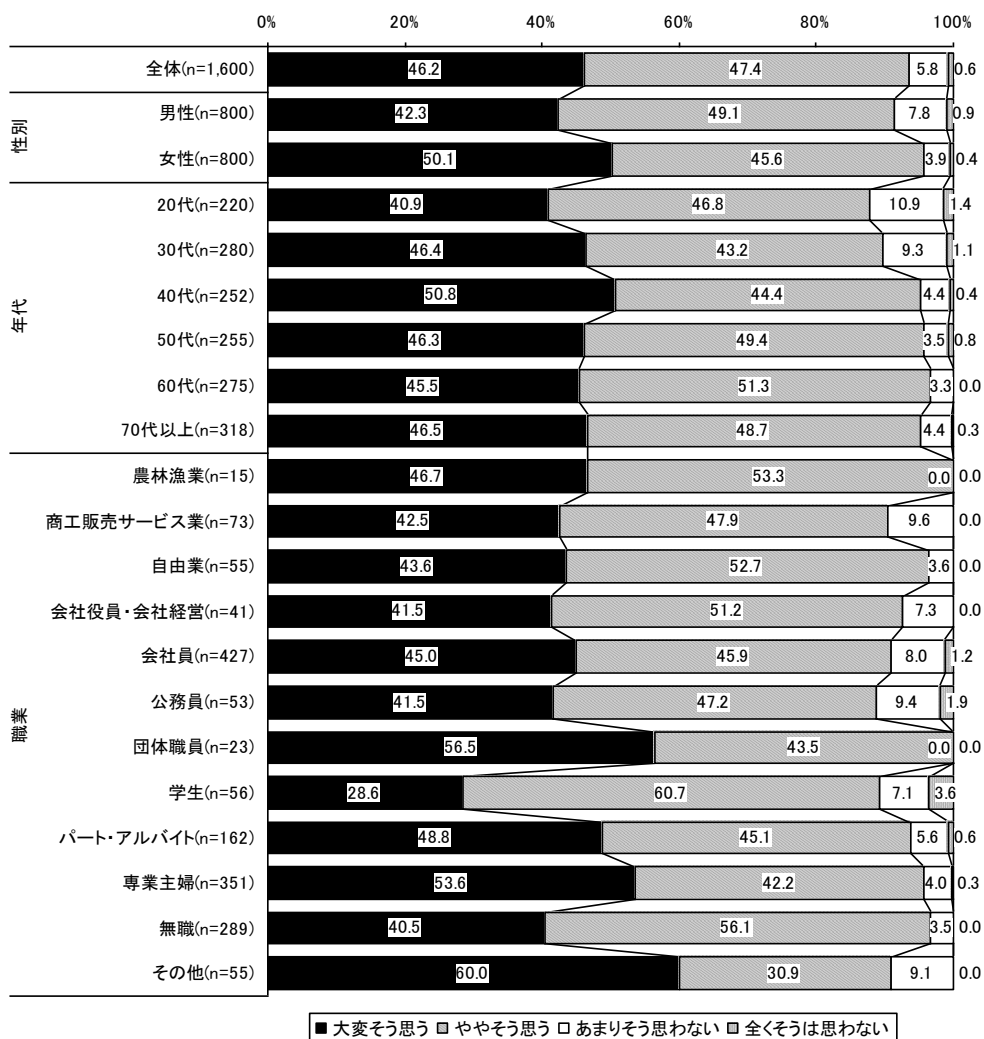


図表 2-4 環境問題への取組①に対する考え方（地域別、都市規模別）

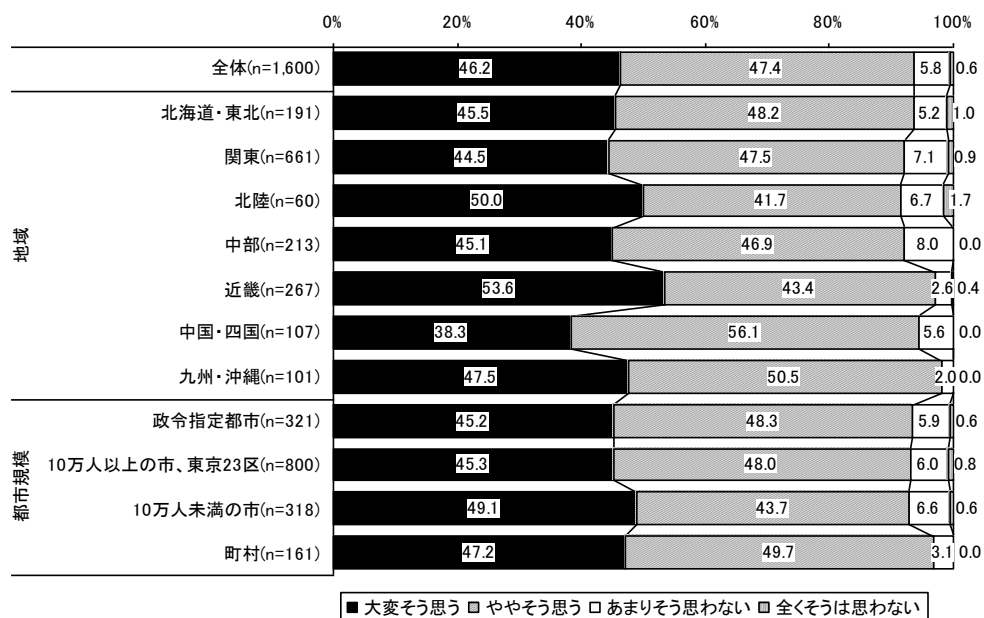


環境問題への取組② 日常生活における一人ひとりの行動が、環境に大きな影響を及ぼしている

図表 2-5 環境問題への取組②に対する考え方（性別、年代別、職業別）

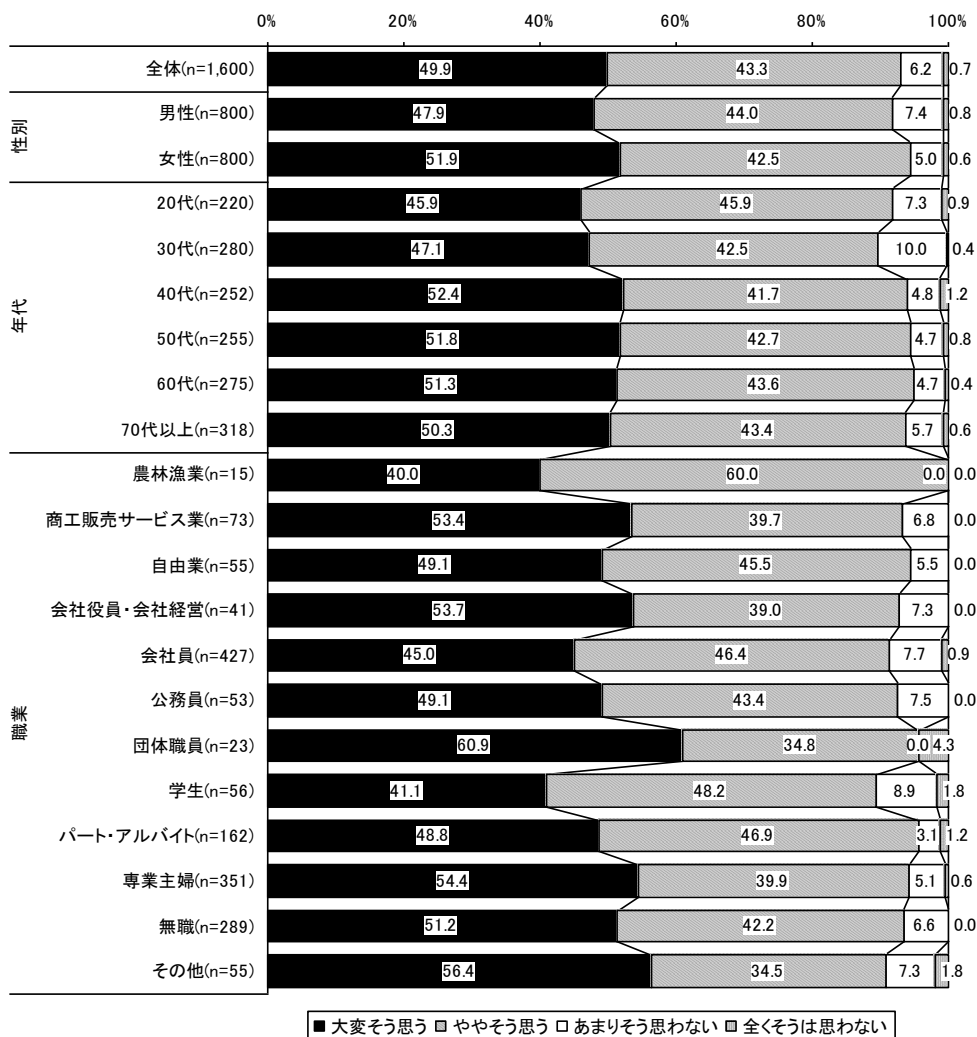


図表 2-6 環境問題への取組②に対する考え方（地域別、都市規模別）

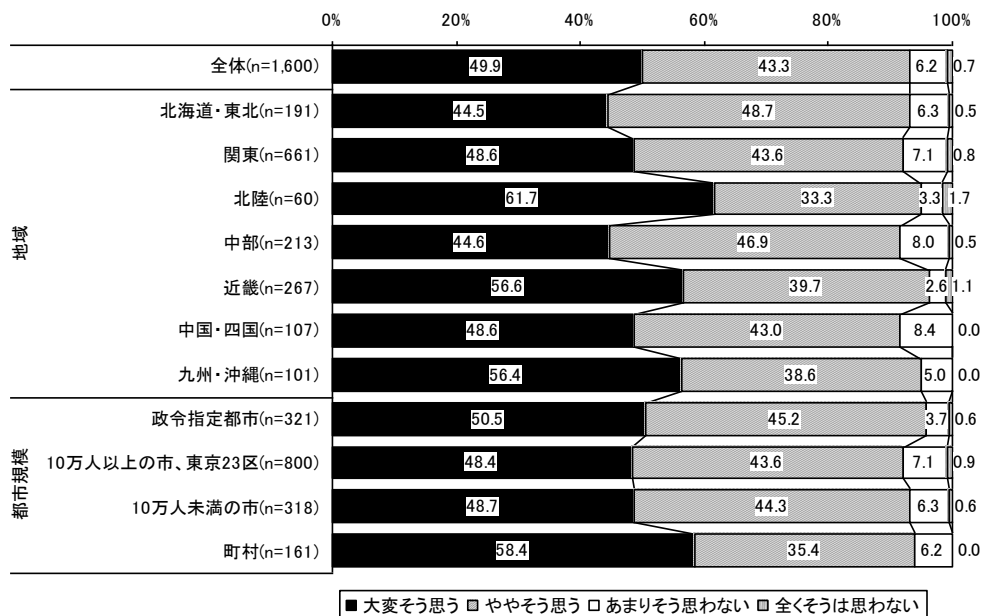


環境問題への取組③ 大量消費・大量廃棄型の生活様式を改めることは重要である

図表 2-7 環境問題への取組③に対する考え方（性別、年代別、職業別）

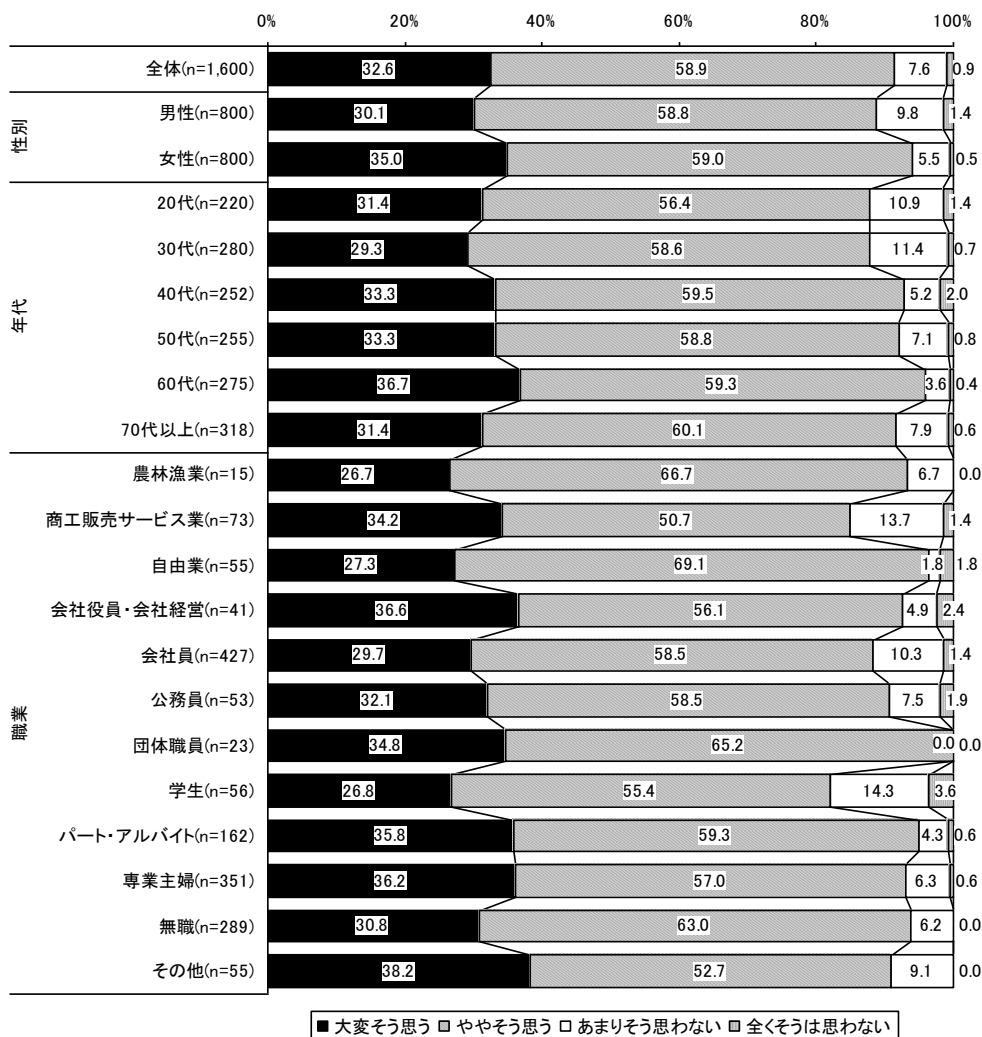


図表 2-8 環境問題への取組③に対する考え方（地域別、都市規模別）

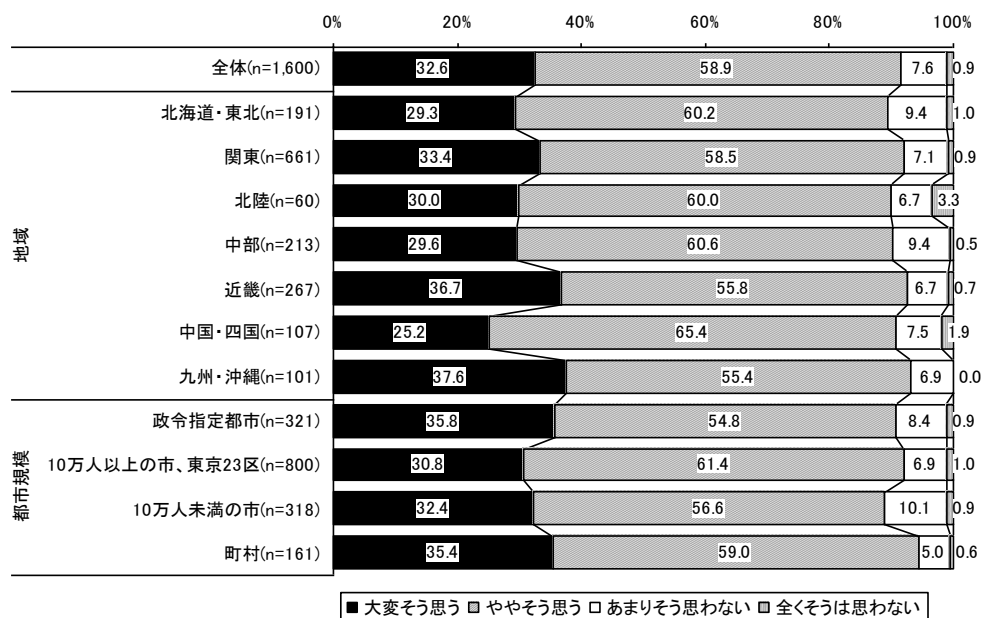


環境問題への取組④ 環境に配慮した製品やサービスを選ぶことは重要である

図表 2-9 環境問題への取組④に対する考え方（性別、年代別、職業別）

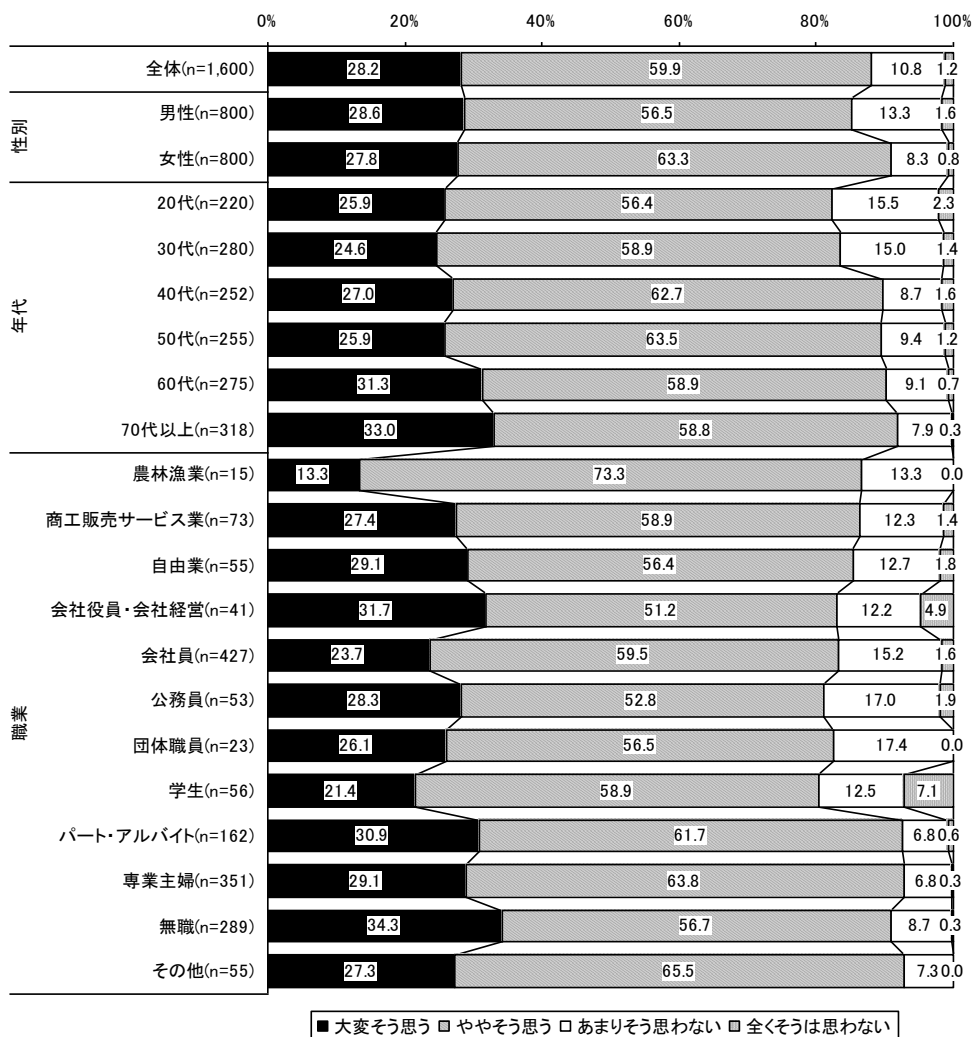


図表 2-10 環境問題への取組④に対する考え方（地域別、都市規模別）

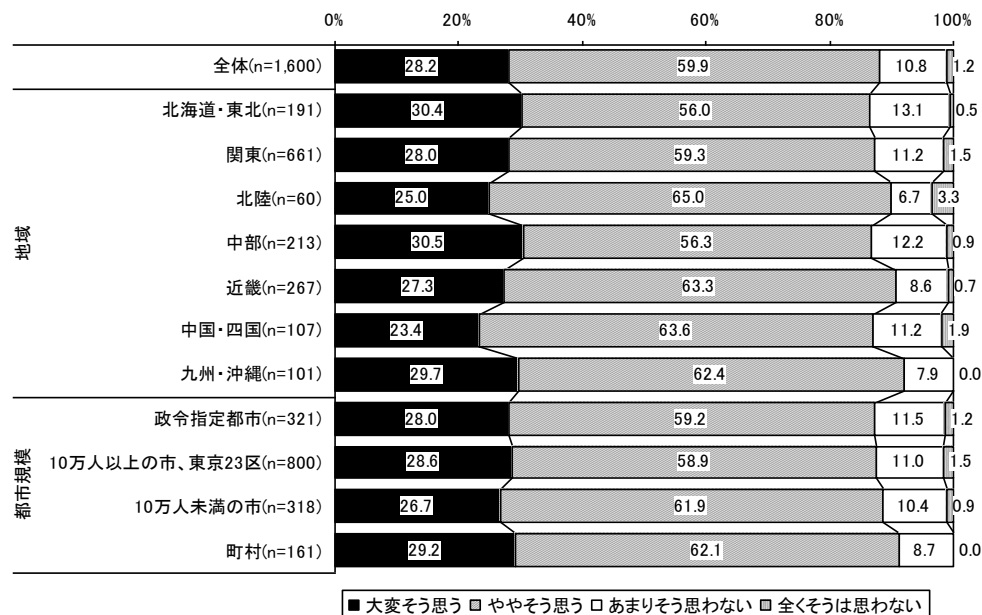


環境問題への取組⑤ 地域の人たちが協力して、その地域の環境保全活動に取り組むことは地域コミュニティの活性化にもつながるので重要である

図表 2-11 環境問題への取組⑤に対する考え方（性別、年代別、職業別）

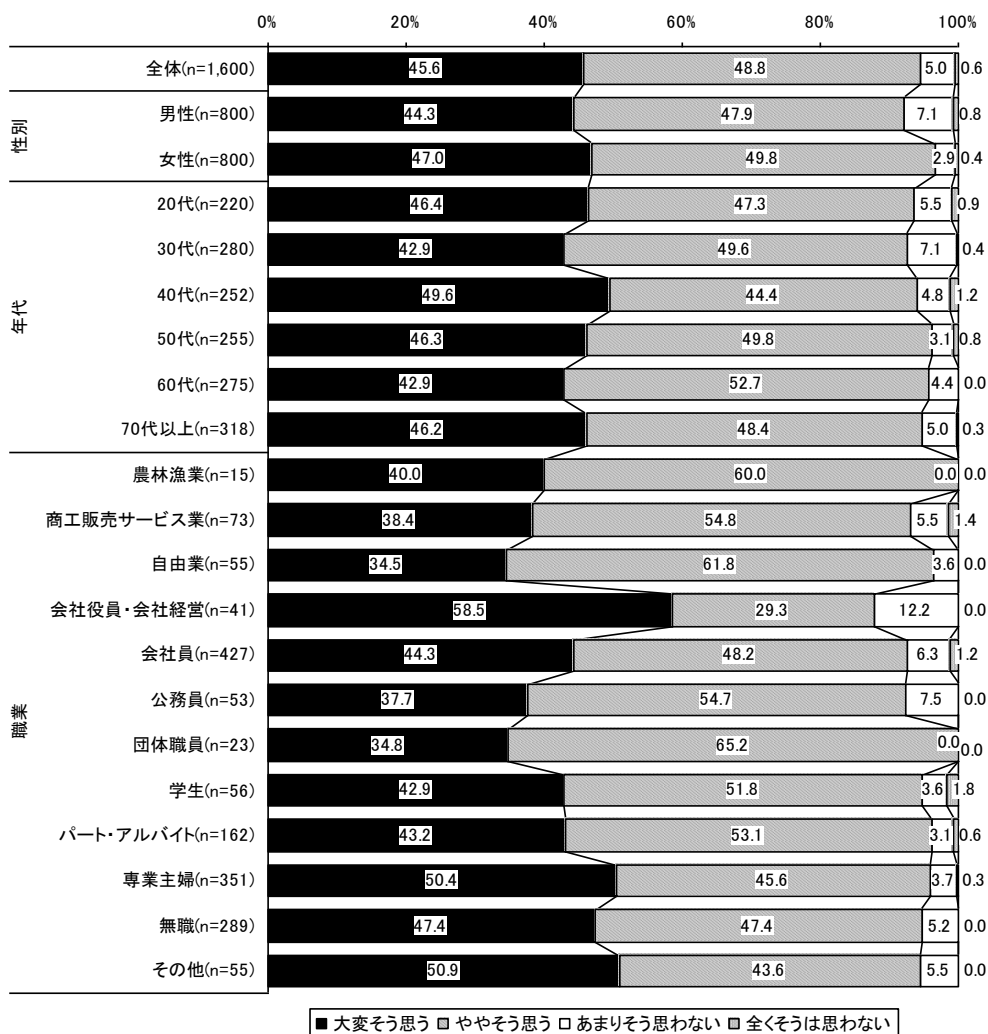


図表 2-12 環境問題への取組⑤に対する考え方（地域別、都市規模別）

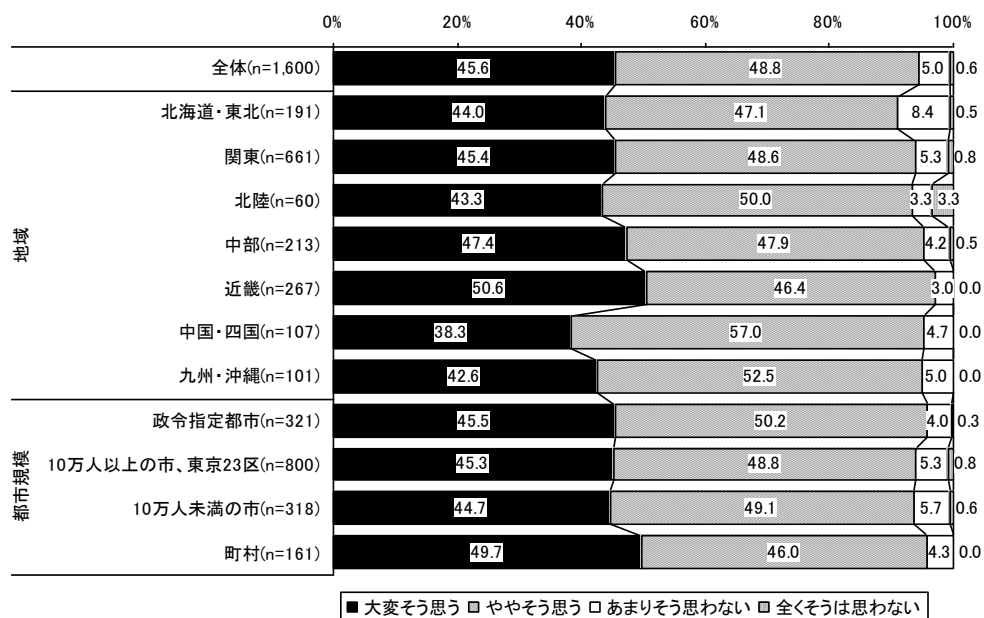


環境問題への取組⑥ 大人にも子どもにも、環境保全について理解を深めるための環境教育や環境学習は重要である

図表 2-13 環境問題への取組⑥に対する考え方（性別、年代別、職業別）

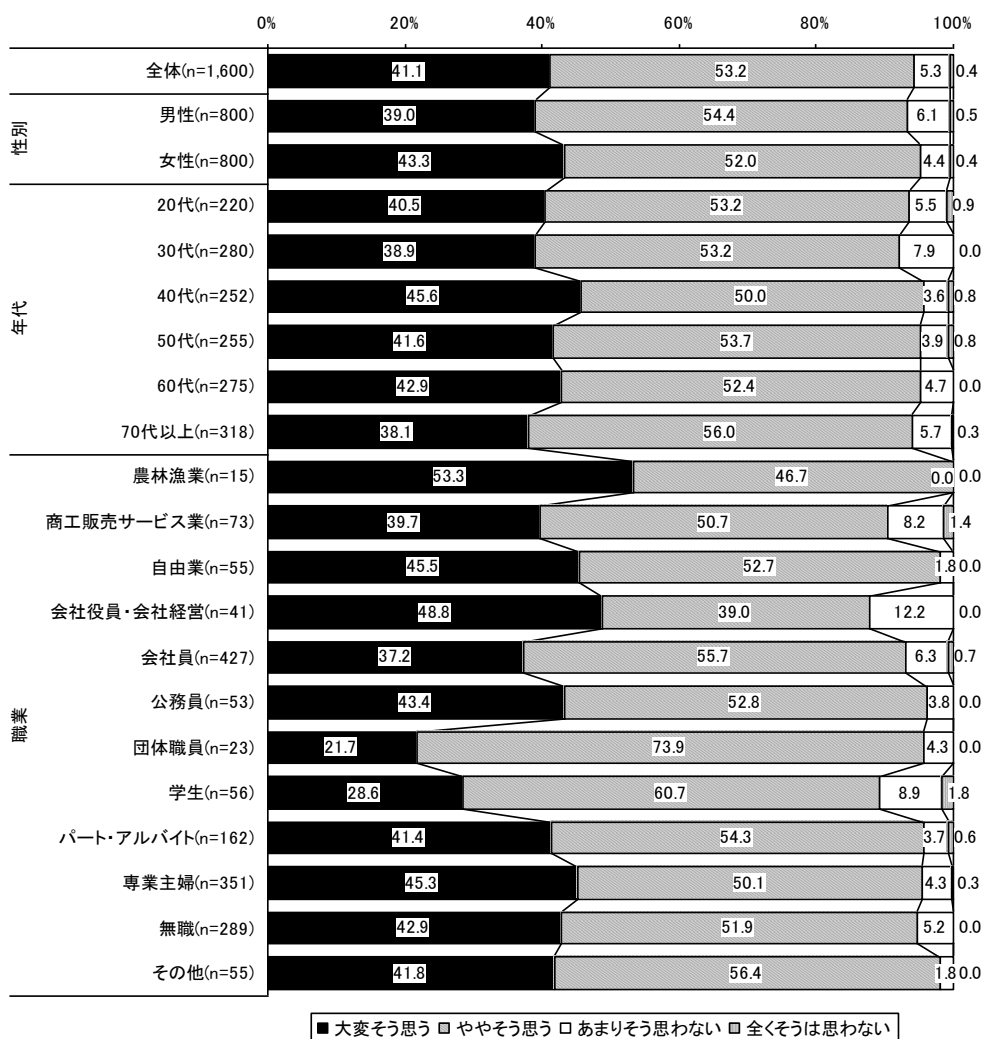


図表 2-14 環境問題への取組⑦に対する考え方（地域別、都市規模別）

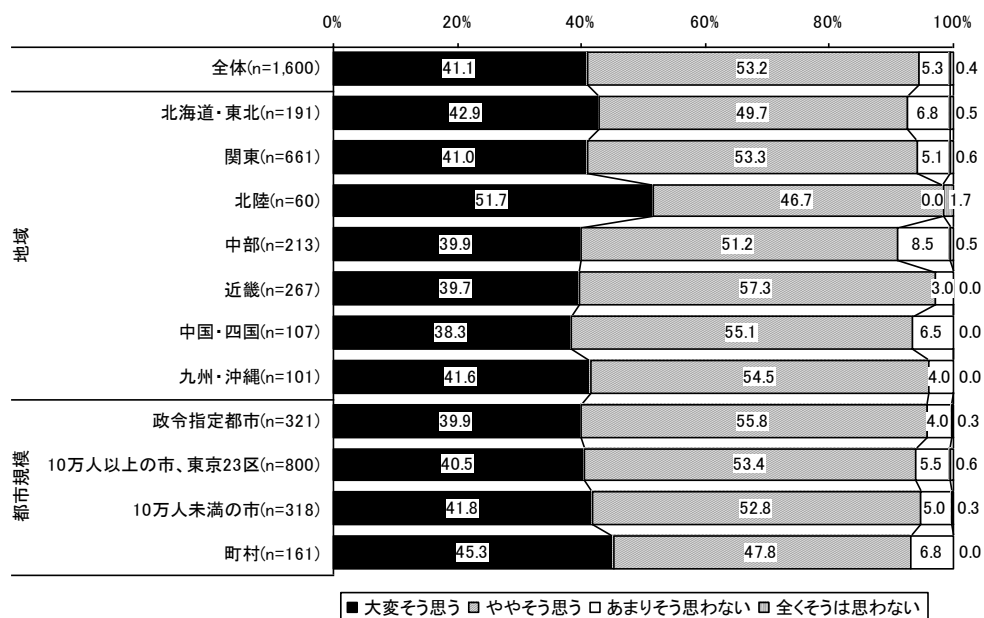


環境問題への取組⑦ 環境に関わる情報を分かりやすく、効率的・効果的に提供することは重要である

図表 2-15 環境問題への取組⑦に対する考え方（性別、年代別、職業別）

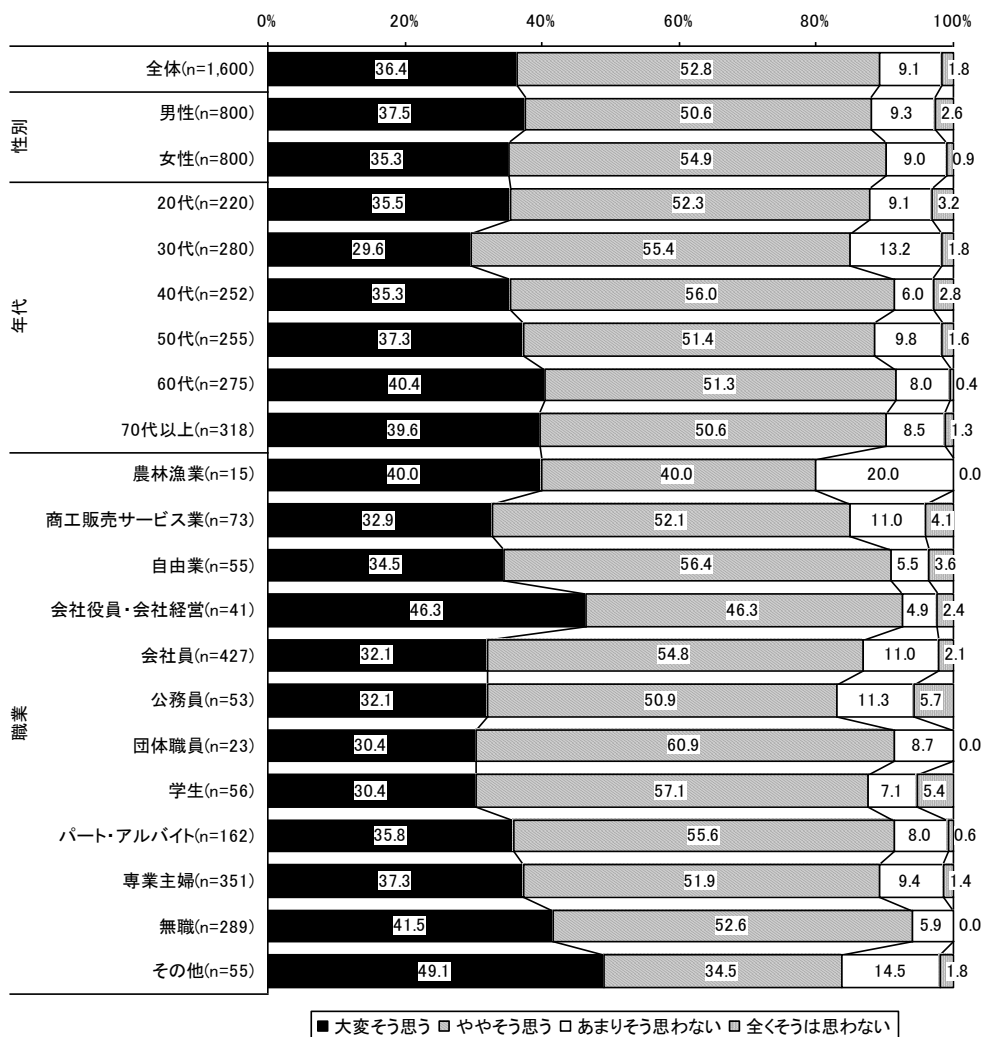


図表 2-16 環境問題への取組⑦に対する考え方（地域別、都市規模別）

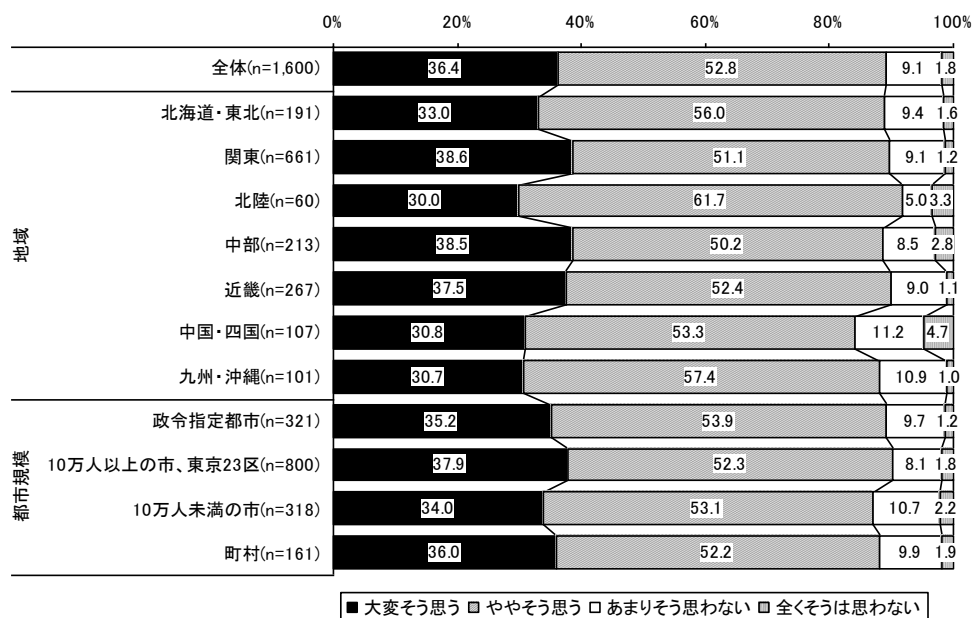


環境問題への取組⑧ 我が国が、国際社会において環境面からの積極的な寄与・参加を行うことは重要である

図表 2-17 環境問題への取組⑧に対する考え方（性別、年代別、職業別）

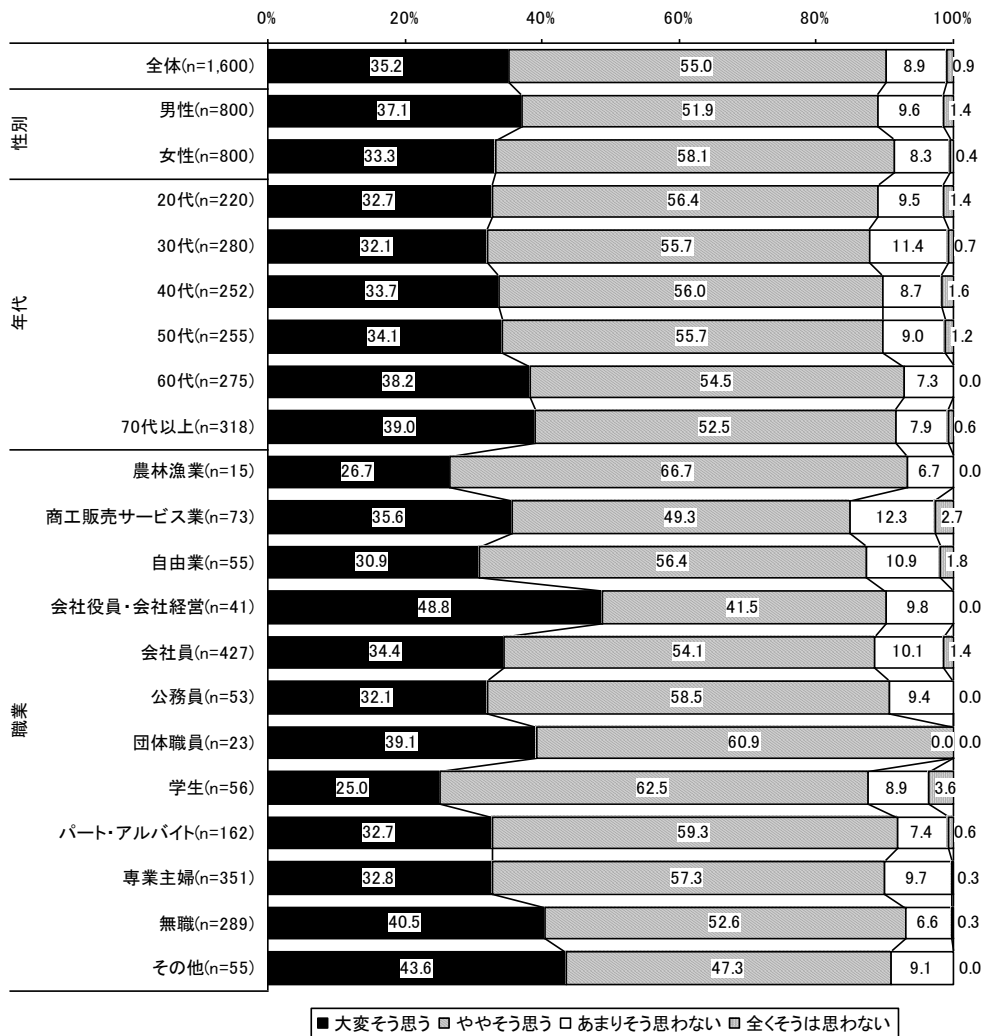


図表 2-18 環境問題への取組⑧に対する考え方（地域別、都市規模別）

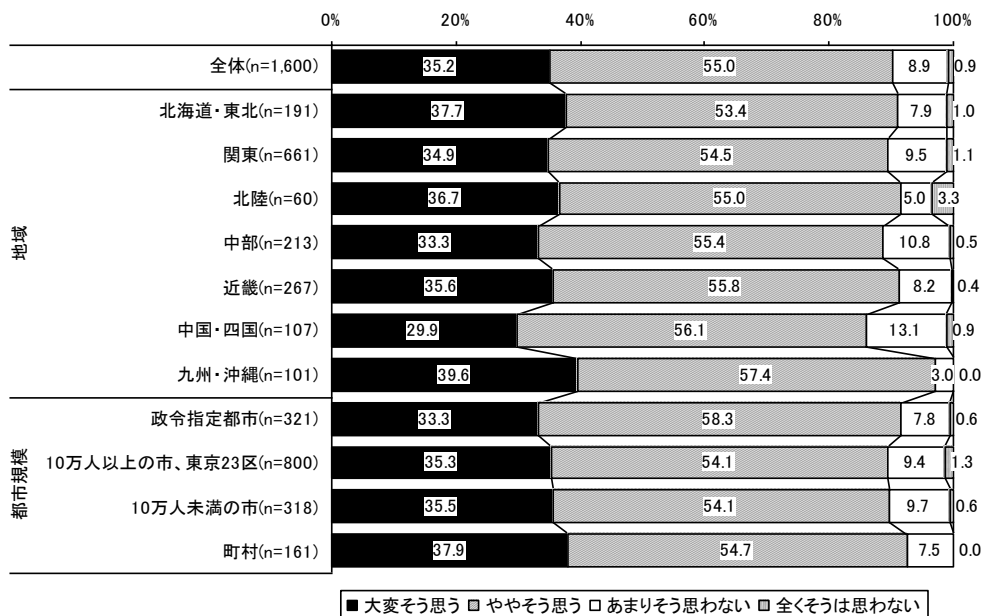


環境問題への取組⑨ 行政が環境保全に関する施策を進めるに当たっては、施策を考える段階から、国民も積極的に参加できるようにする必要がある

図表 2-19 環境問題への取組⑨に対する考え方（性別、年代別、職業別）



図表 2-20 環境問題への取組⑨に対する考え方（地域別、都市規模別）



2-2 環境保全行動の実施状況・実施意向(問 2-2)

(1) 環境保全行動の実施状況

環境保全行動の実施状況は、家庭内で日常的にできることについては多くの人々が実施している。一方、参加するものや、環境への影響を考えながら行うものについては実施している人が少ない傾向がみられる。

環境保全行動の実施状況については、「すでに行っており、今後も引き続き行いたいと思う」と「すでに行っているが、今後はあまり行いたいとは思わない」を合計した「実施している」と回答した人の割合を整理すると、以下のようになっている。

70%以上の人が実施している項目

- 「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにする」 95%
- 「日常生活において節電等の省エネに努める」 89%
- 「日常生活において節水に努める」 85%
- 「油や食べかすなど排水口から流さない」 83%
- 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにする」 79%

20%未満の人しか実施していない項目

- 「講習会等で得た環境保全に関することを実践する」 19%
- 「体験型の環境教育・環境学習活動に参加する」 15%

平成 20 年度調査と比較して実施している人の割合が増加したものは、以下のようになっている。

20 ポイント以上増加した項目

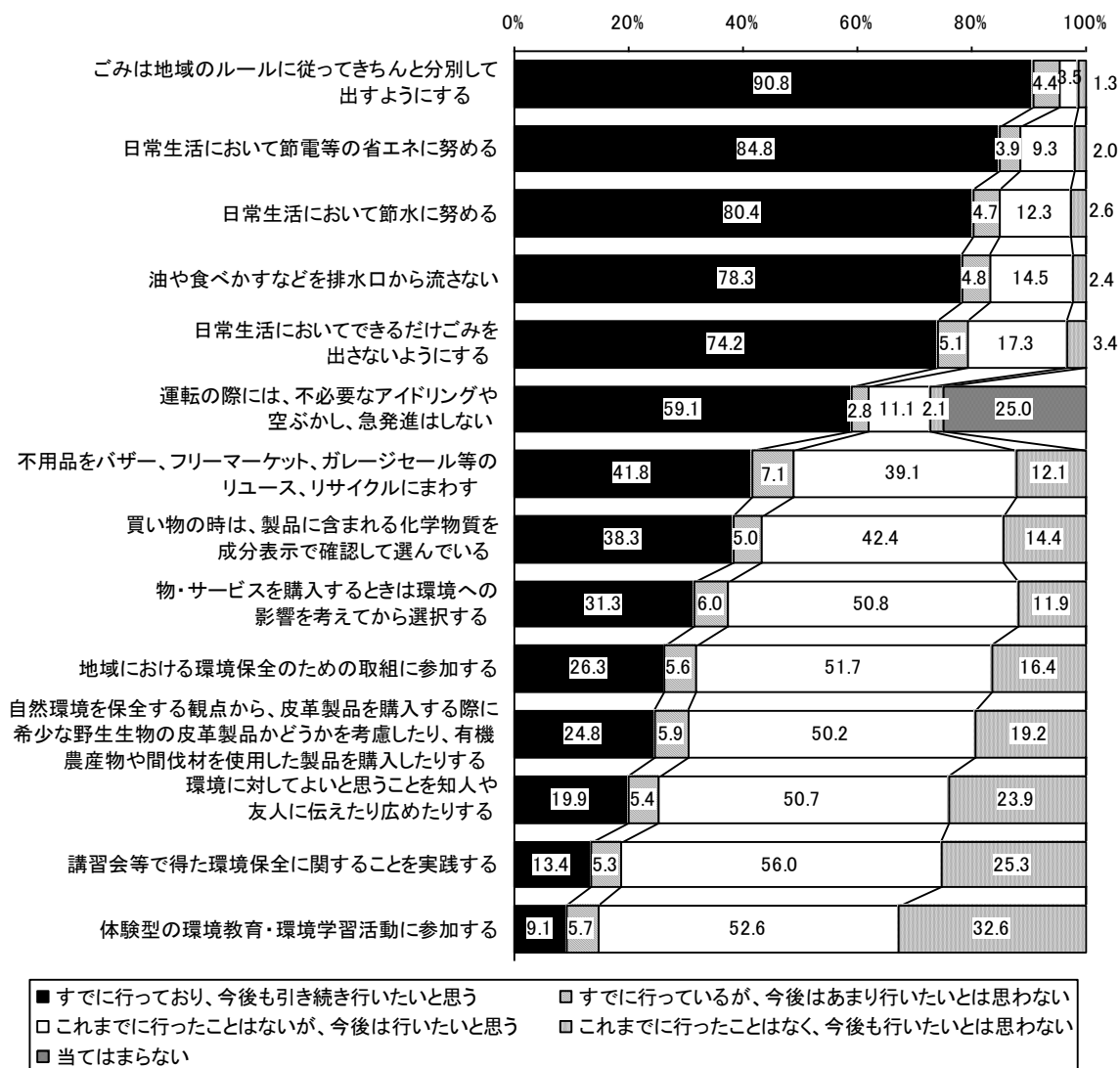
- 「日常生活において節電等の省エネに努める」 67%→89% 22 ポイント増加
- 「日常生活において節水に努める」 63%→85% 22 ポイント増加
- 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにする」 45%→79% 34 ポイント増加

10 ポイント以上増加した項目

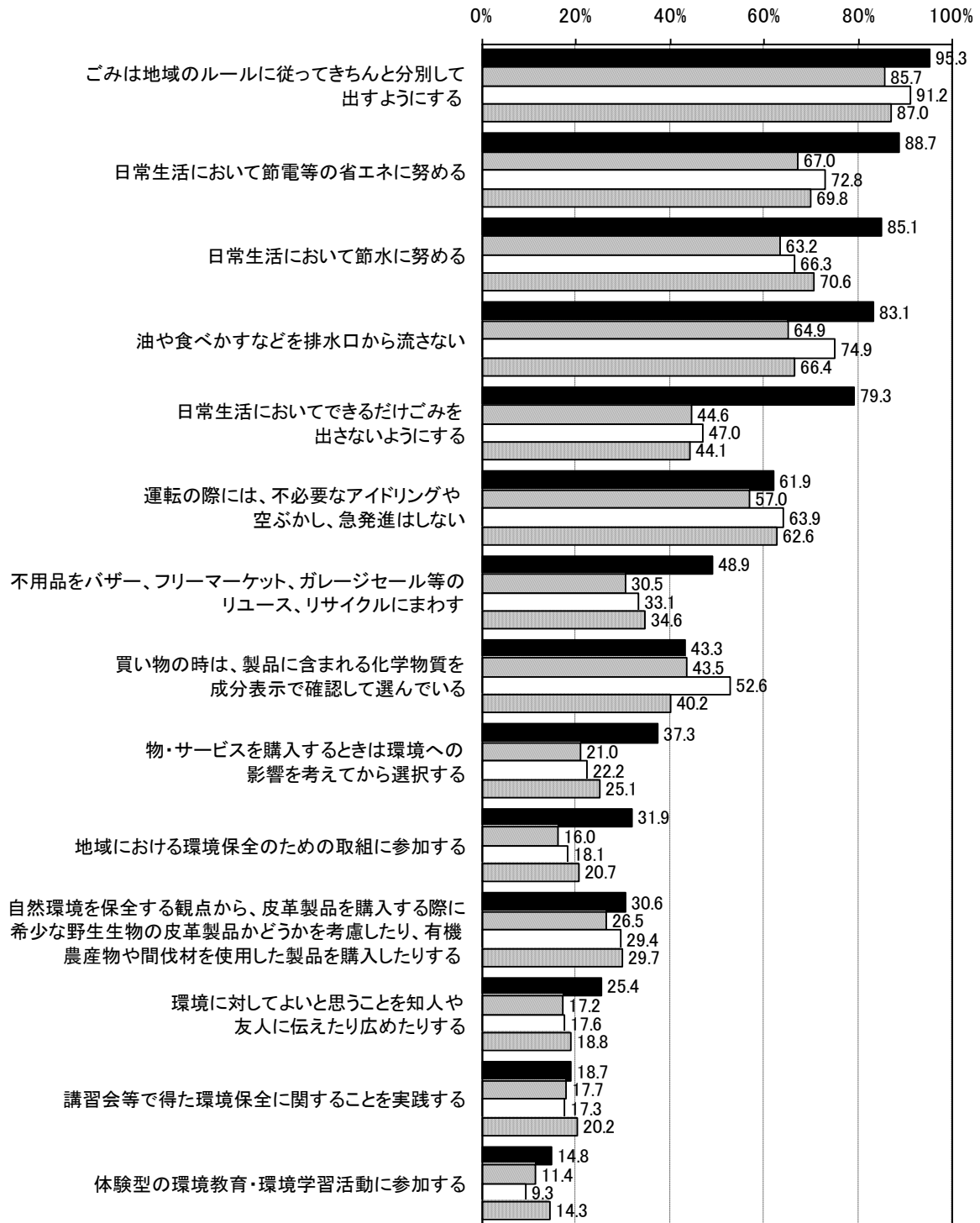
- 「油や食べかすなど排水口から流さない」 65%→83% 18 ポイント増加
- 「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわす」 31%→49% 18 ポイント増加
- 「物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択する」 21%→37% 16 ポイント増加
- 「地域における環境保全のための取組に参加する」 16%→32% 16 ポイント増加

一方、平成 20 年度調査と比較して実施している人の割合が 1 ポイント以上減少したものは、みられなかった。

図表 2-21 環境保全行動の実施状況・実施意向



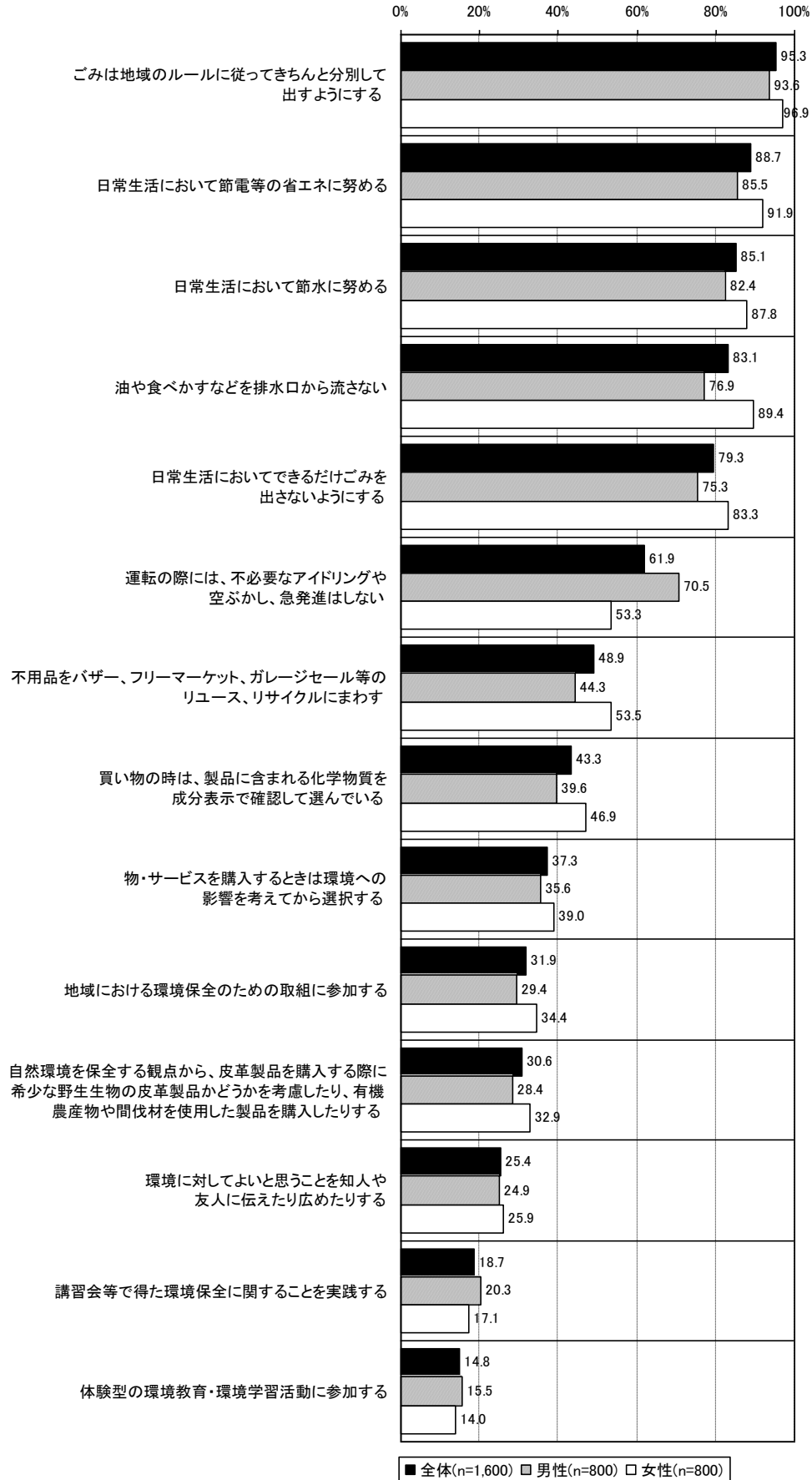
図表 2-22 環境保全行動の実施状況（時系列）（※）



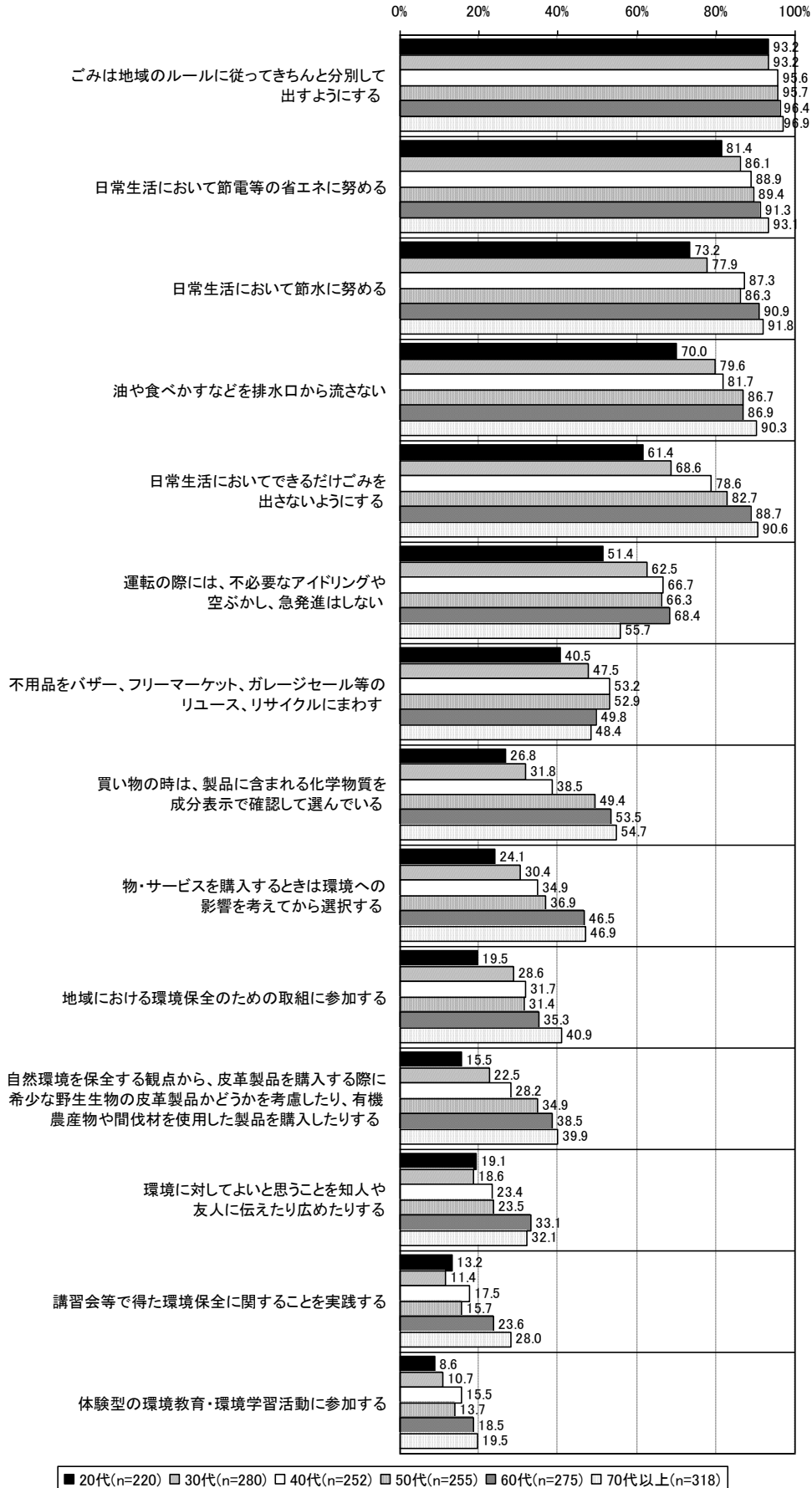
■ 平成21年度(n=1,600) □ 平成20年度(n=2,197) □ 平成19年度(n=1,627) □ 平成18年度(n=1,890)

（※）「すでに行っており、今後も引き続き行いたいと思う」、「すでに行っているが、今後はあまり行いたいとは思わない」の合計

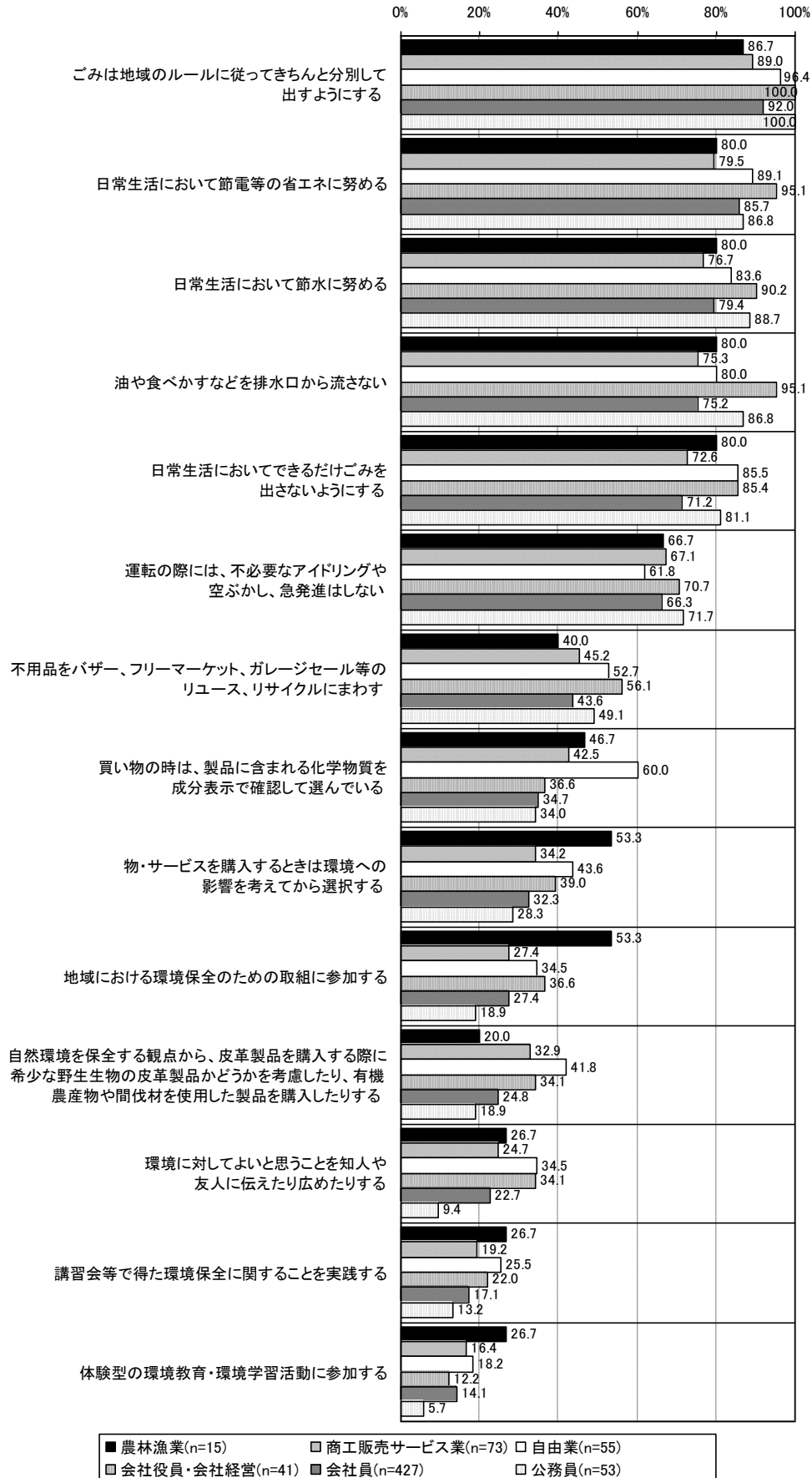
図表 2-23 環境保全行動の実施状況（全体、性別）



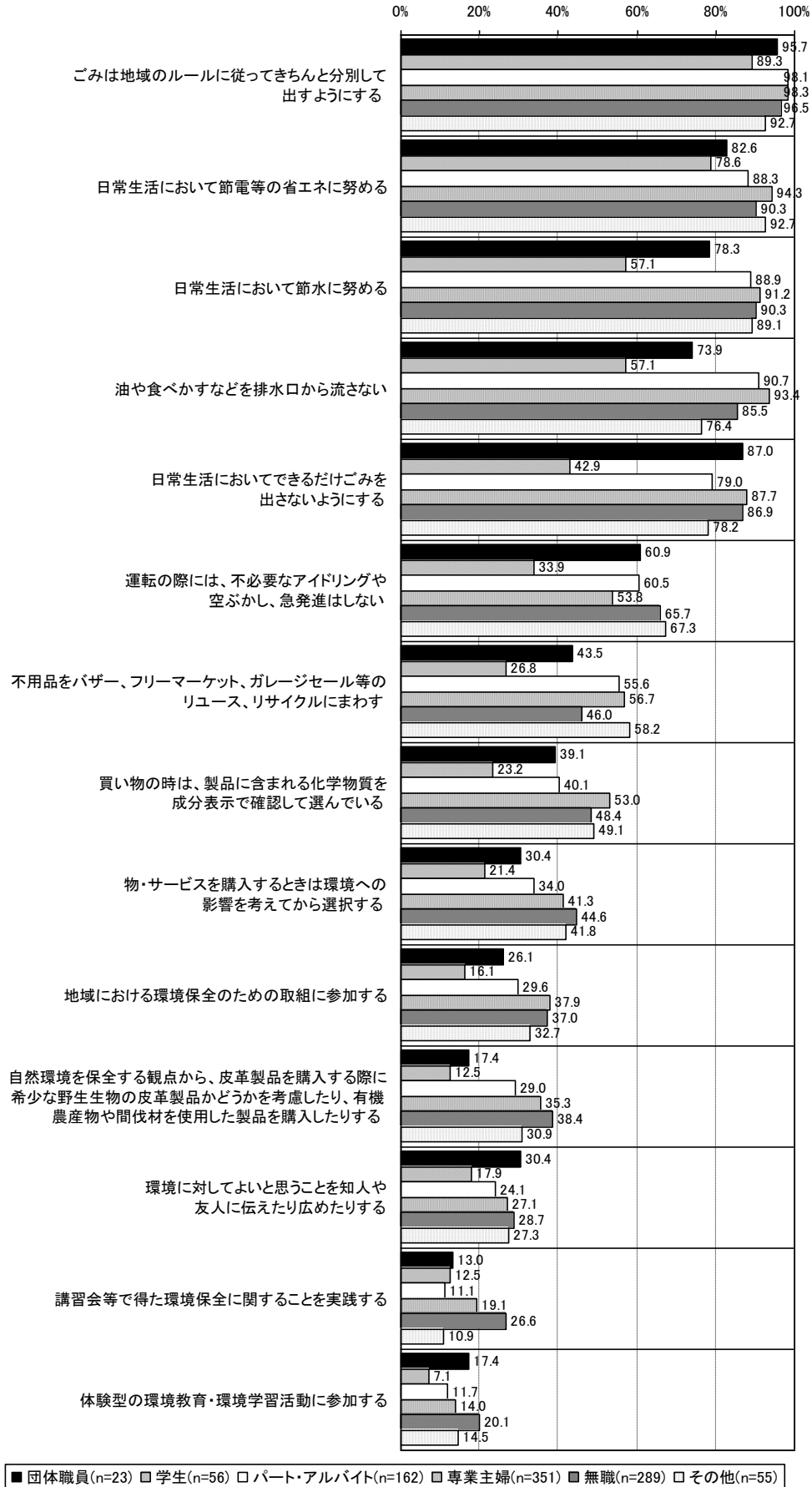
図表 2-24 環境保全行動の実施状況（年代別）



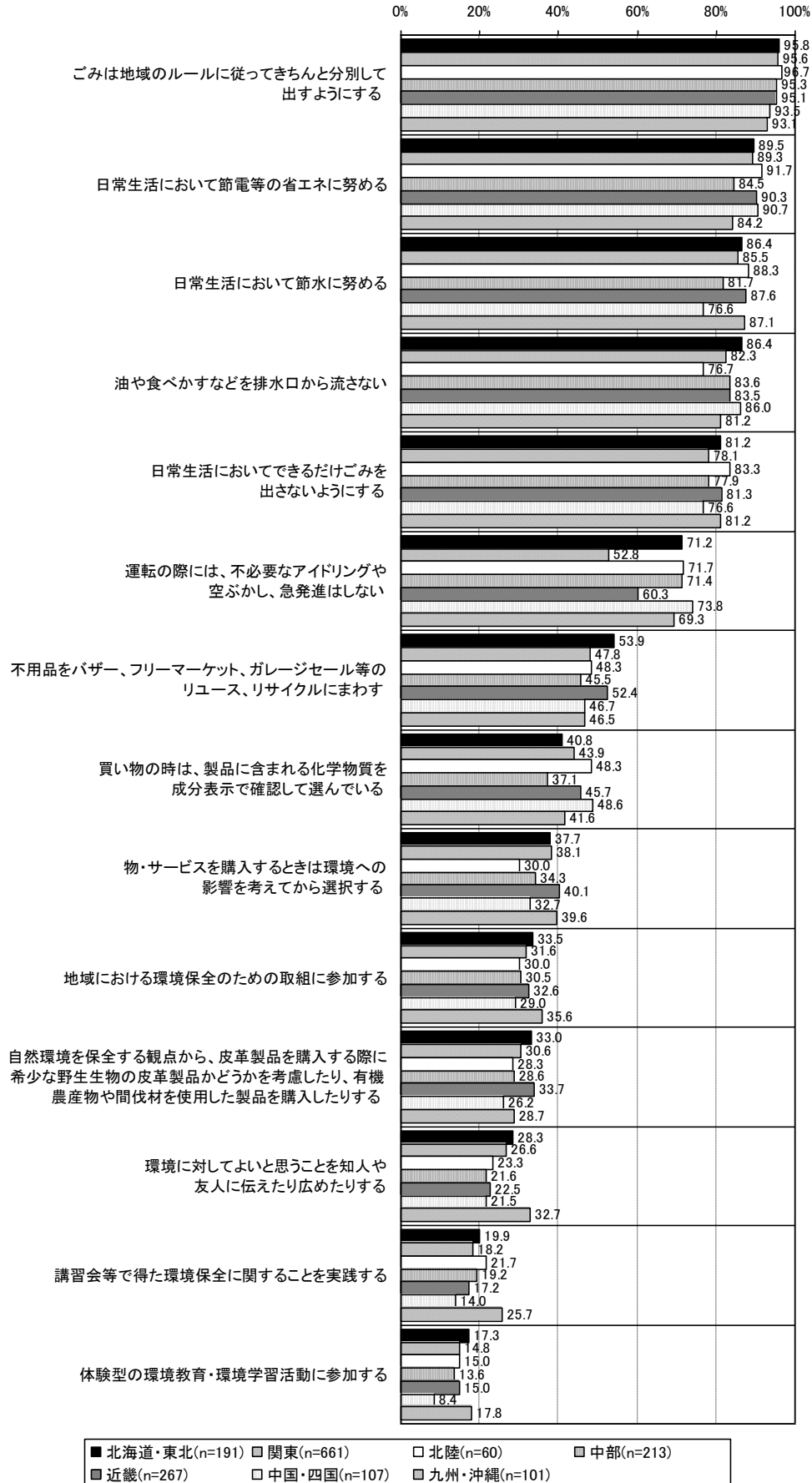
図表 2-25 環境保全行動の実施状況（職業別 1/2）



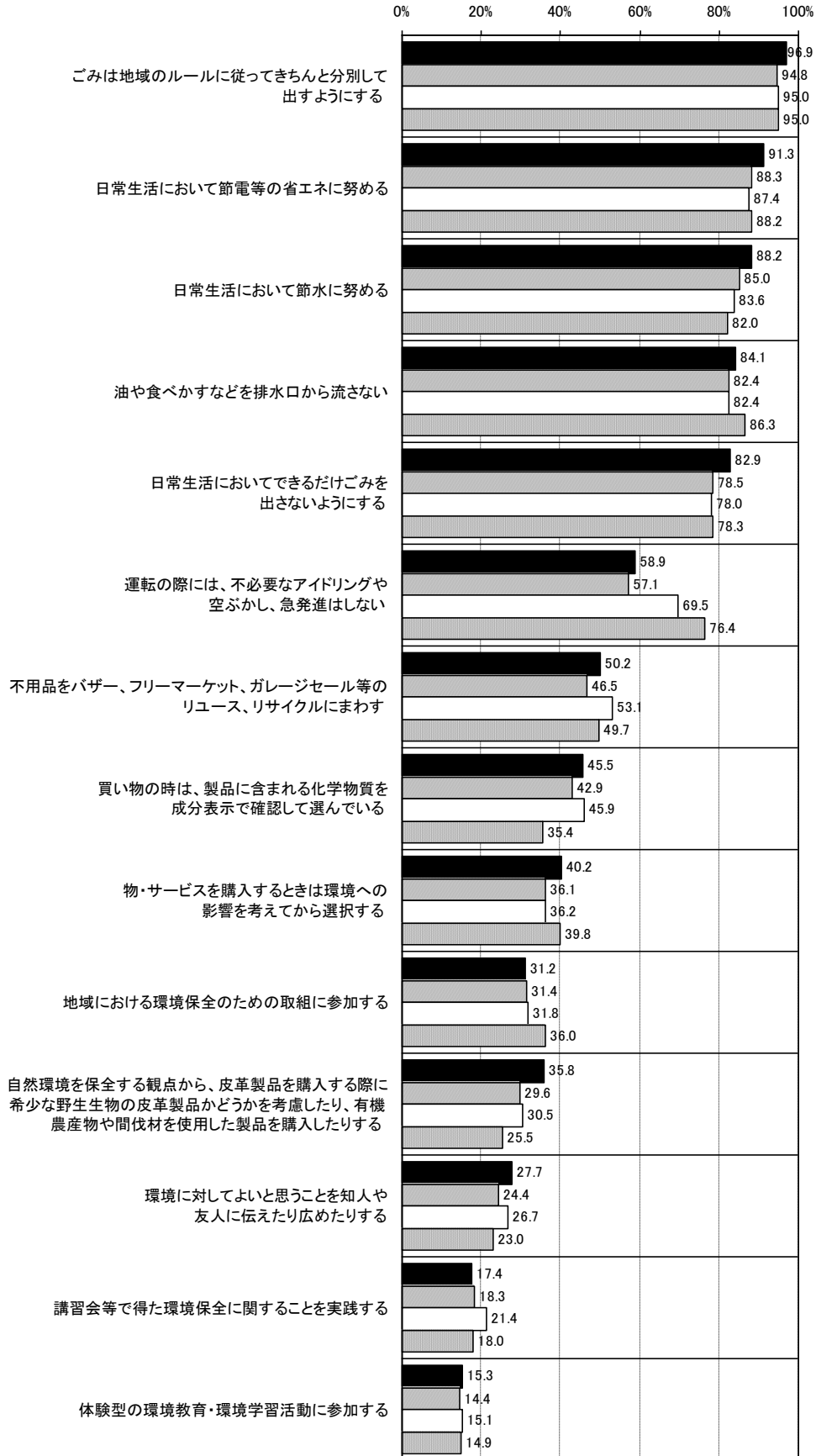
図表 2-26 環境保全行動の実施状況（職業別 2/2）



図表 2-27 環境保全行動の実施状況（地域別）



図表 2-28 環境保全行動の実施状況（都市規模別）



■ 政令指定都市(n=321) □ 10万人以上の市、東京23区(n=800) □ 10万人未満の市(n=318) □ 町村(n=161)

(2) 環境保全行動の今後の実施意向

今後の実施意向については、多くの人が実施したいという意向があることがうかがえる。特に実施状況と同様に家庭内でできることに関しては、高い意向となっている。

環境保全行動の今後の実施意向について、「すでに行っており、今後も引き続き行いたいと思う。」と「これまで行ったことはないが、今後は行いたいと思う」を合計した「実施したい」と回答した人の割合を整理すると、以下のようになっている。

90%以上の人が今後実施したい項目

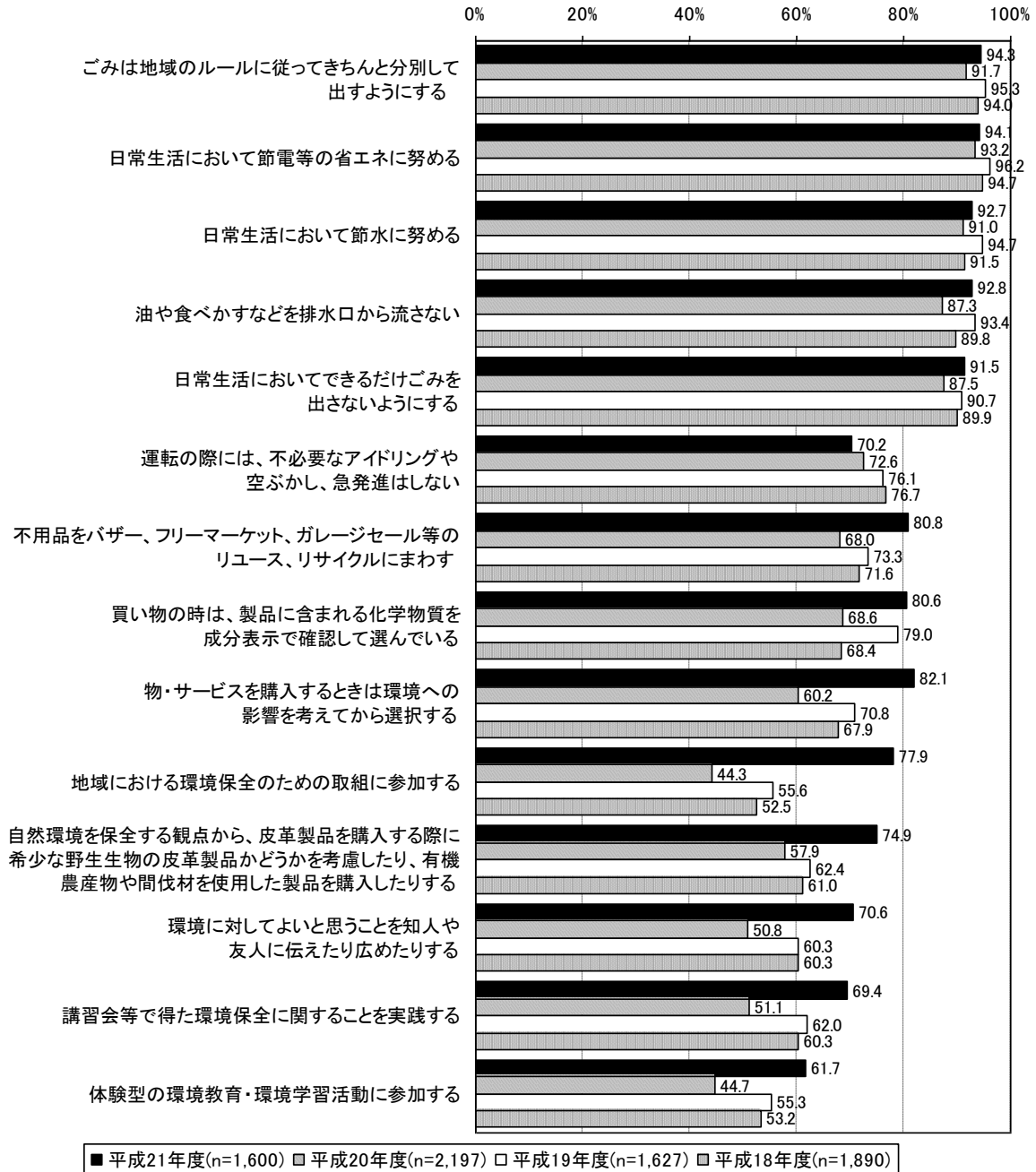
- 「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにする」 94%
- 「日常生活において節電等の省エネに努める」 94%
- 「日常生活において節水に努める」 93%
- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」 93%
- 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにする」 92%

70%以上の人が今後実施したい項目

- 「運転の際には、不必要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」 70%
- 「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわす」 81%
- 「買い物の際は、製品に含まれる化学物質を成分表示で確認して選んでいる」 81%
- 「物・サービスを購入するときは環境への影響を考慮してから選択する」 82%
- 「地域における環境保全のための取組に参加する」 78%
- 「自然環境を保全する観点から、皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりする」 75%
- 「環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりする」 71%

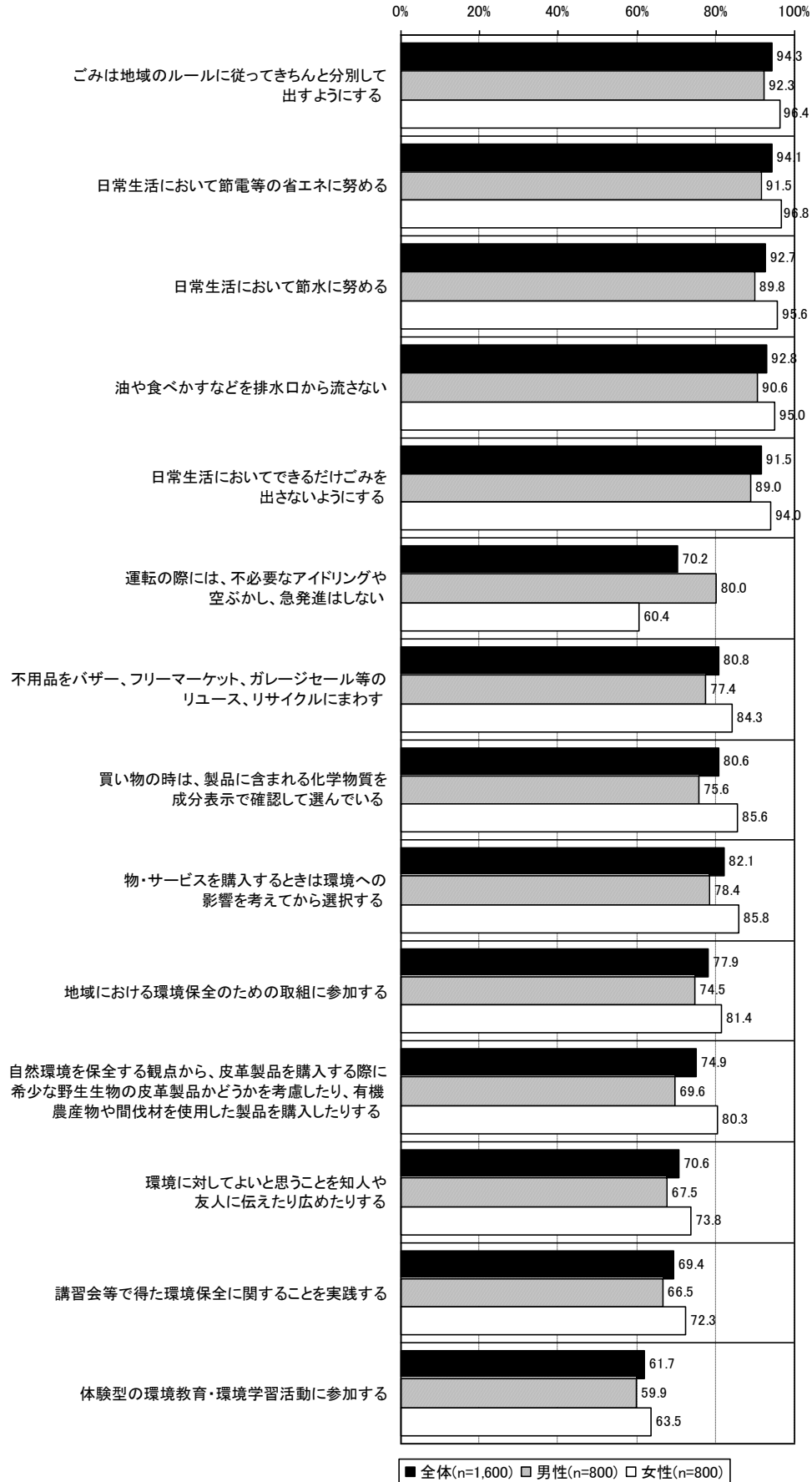
一方、今後実施したい人が 60%未満の項目はみられなかった。

図表 2-29 環境保全行動の実施意向（時系列）（※）

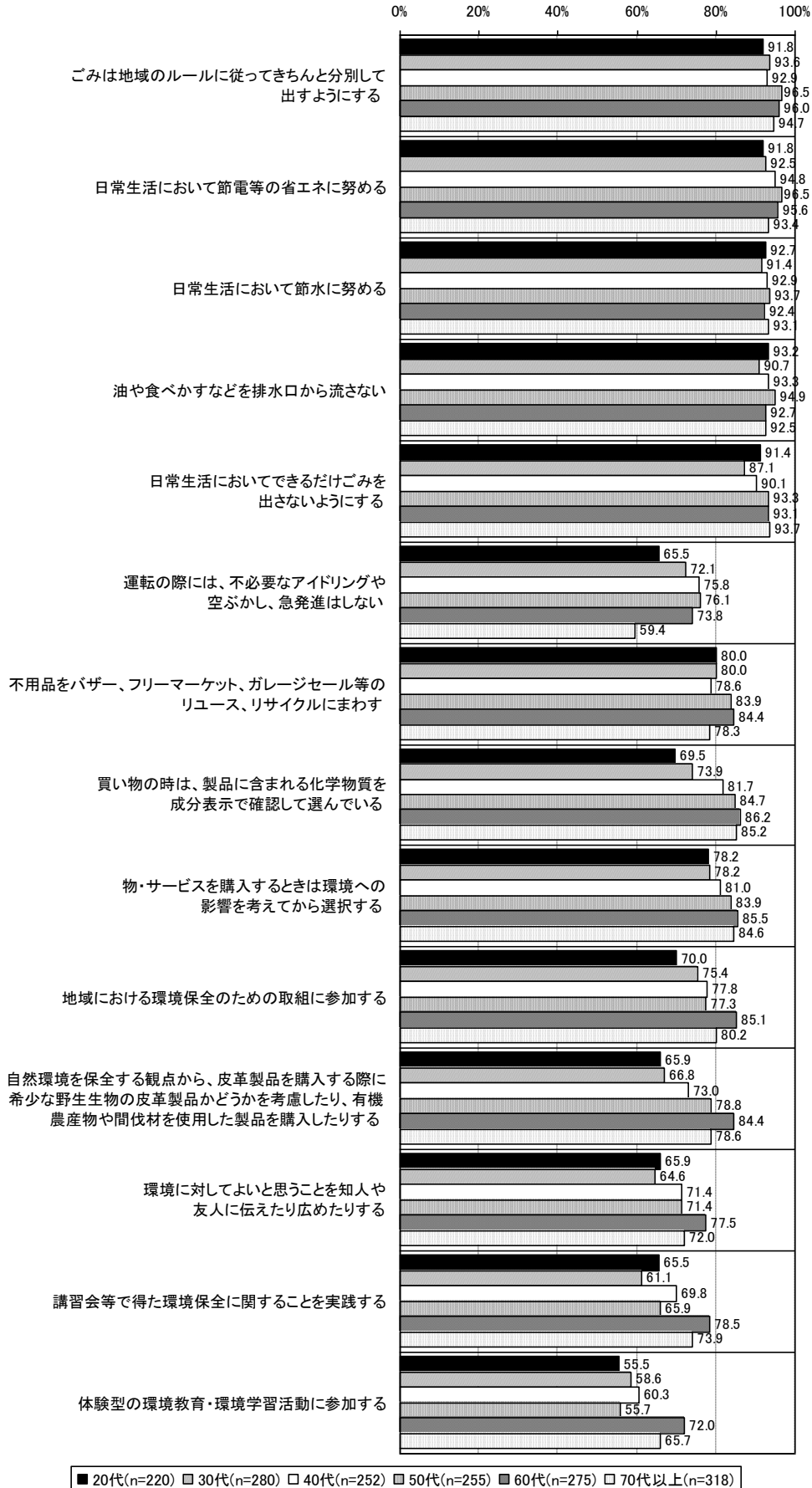


（※）「すでに行っており、今後も引き続き行いたいと思う」、「これまで行ったことはないが、今後は行いたいと思う」の合計

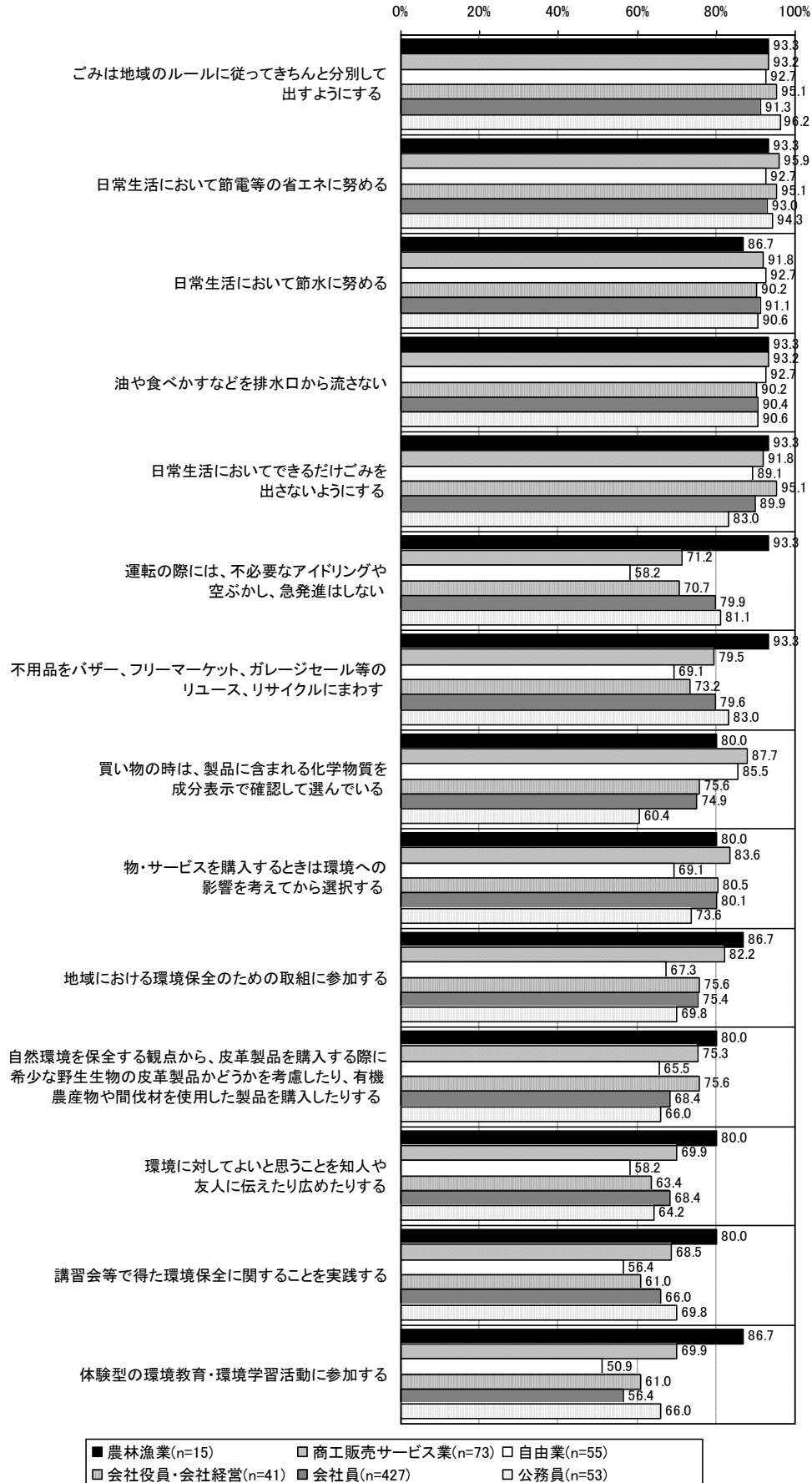
図表 2-30 環境保全行動の実施意向（全体、性別）



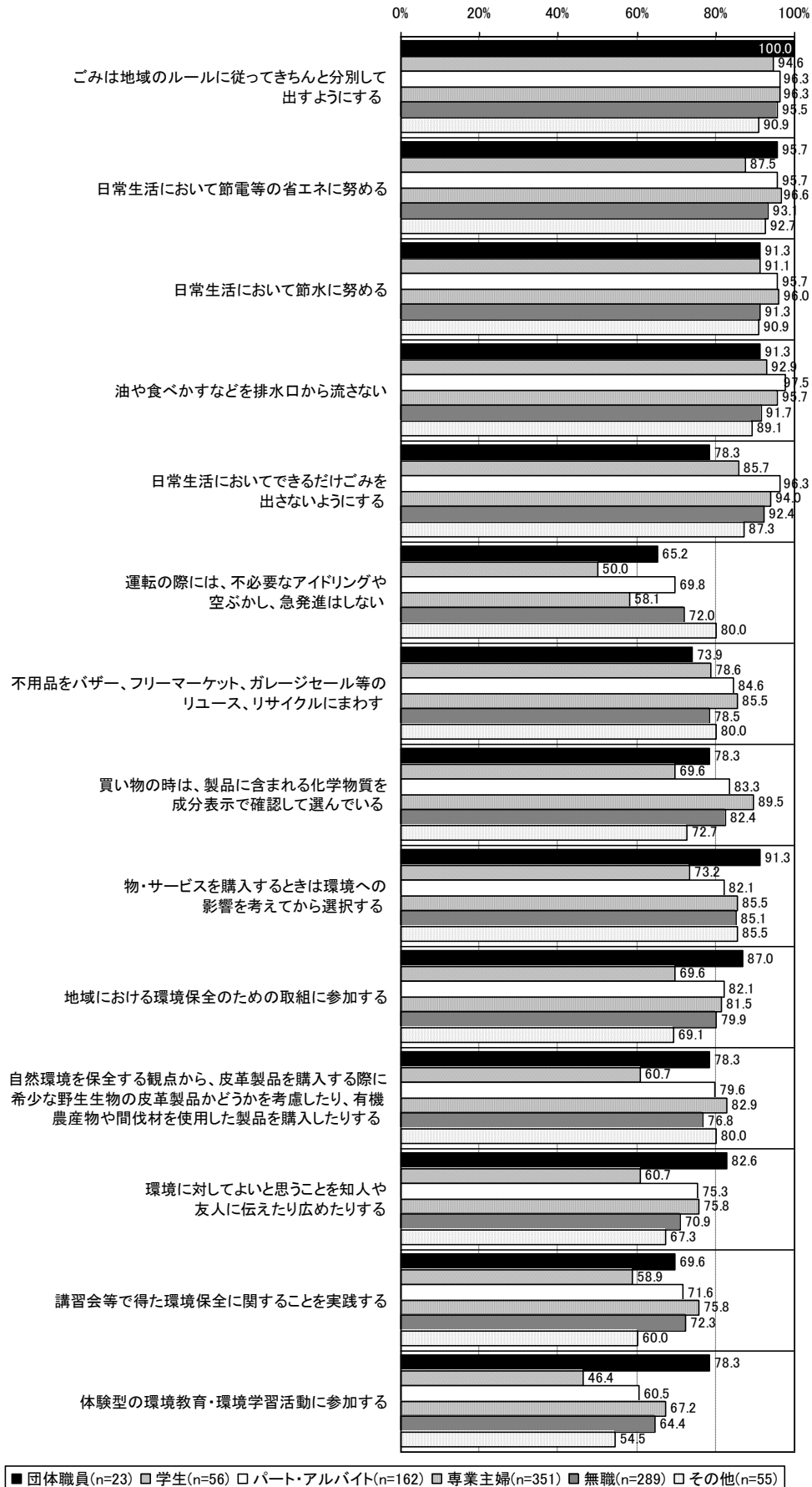
図表 2-31 環境保全行動の実施意向（年代別）



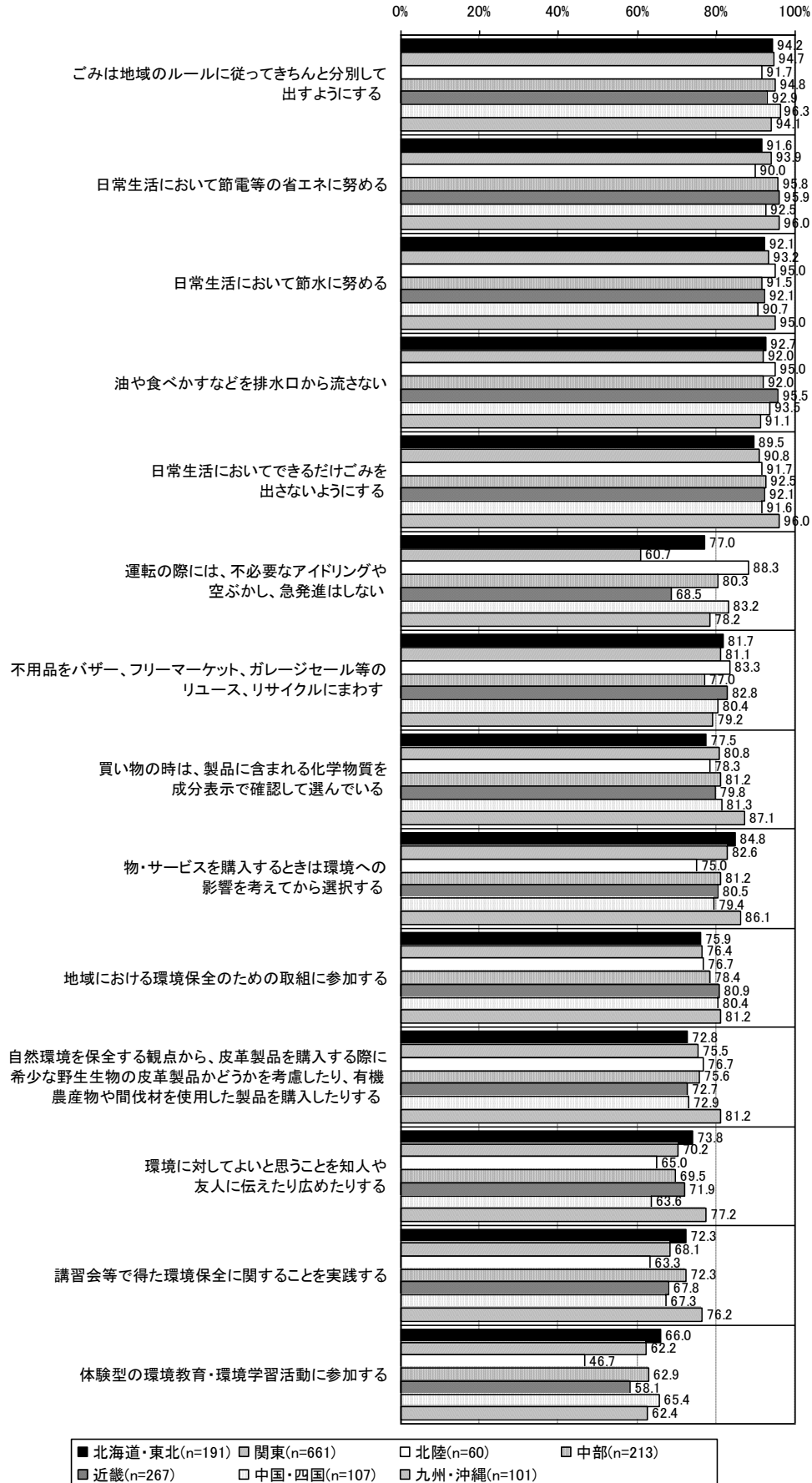
図表 2-32 環境保全行動の実施意向（職業別 1/2）



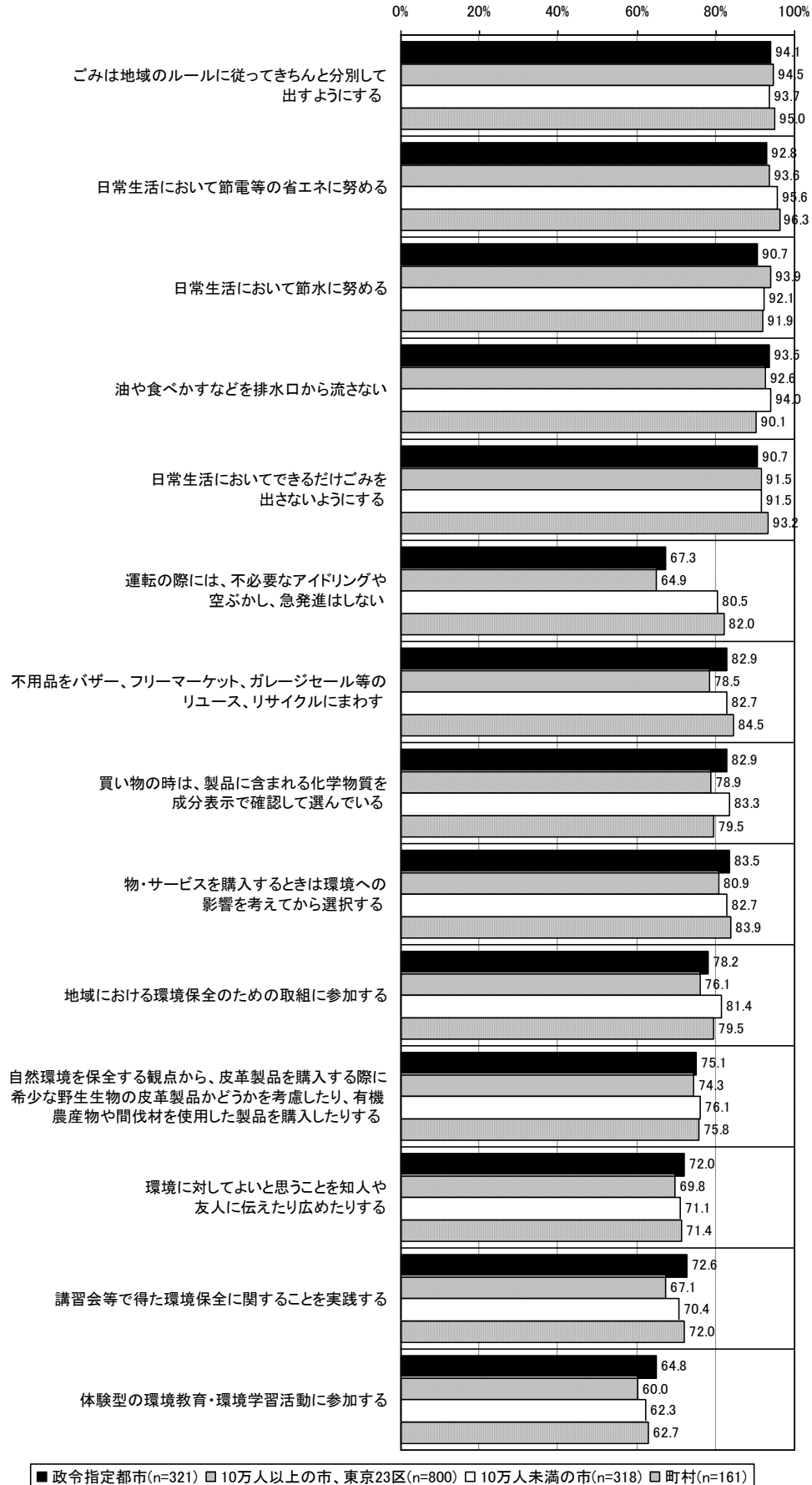
図表 2-33 環境保全行動の実施意向（職業別 2/2）



図表 2-34 環境保全行動の実施意向（地域別）



図表 2-35 環境保全行動の実施意向（都市規模別）



(3) 第三次環境基本計画の各重点分野政策プログラムに関連する環境保全行動の実施状況

問 2-2 において実施状況を尋ねた環境保全行動をそれぞれ関連する第三次環境基本計画第二部第 1 章の重点分野政策プログラム（以下「重点分野」という。）ごとに整理すると以下となる。

<重点分野 1> 地球温暖化問題に対する取組

平成 20 年度調査よりも実施率が上昇しており、高い実施率となっている。

- 「日常生活において節電等の省エネに努める」 89%

<重点分野 2> 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組

全ての項目で、平成 20 年度、平成 19 年度、平成 18 年度調査よりも実施率が上昇している。

- 「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにする」 95%
- 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにする」 79%
- 「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわす」 49%

<重点分野 3> 都市における良好な大気環境の確保に関する取組

平成 20 年度調査よりも実施率は 5 ポイント上昇しているものの、平成 19 年度、平成 18 年度調査とほぼ同程度の実施率となっている。

- 「運転の際には、不必要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」 62%

<重点分野 4> 環境保全上健全な水循環の確保に向けた取組

全ての項目で平成 20 年度調査より約 20 ポイント実施率が上昇し、80%以上と高い実施率となっている。

- 「日常生活において節水に努める」 85%
- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」 83%

<重点分野 5> 化学物質の環境リスクの低減に向けた取組

実施率は 40%台で平成 20 年度調査とほぼ同程度となっている。

- 「買い物の時は、製品に含まれる化学物質を成分表示で確認して選んでいる」 43%

<重点分野 6> 生物多様性の保全のための取組

平成 20 年度、平成 19 年度、平成 18 年度調査よりも若干上昇したが、実施率は約 30%と低い実施率となっている。

- 「自然環境を保全する観点から、皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりする」 31%

<重点分野 7> 市場において環境の価値が積極的に評価される仕組みづくり

実施率 37%とやや低い実施率であるが、平成 20 年度調査よりも 16 ポイント上昇している。

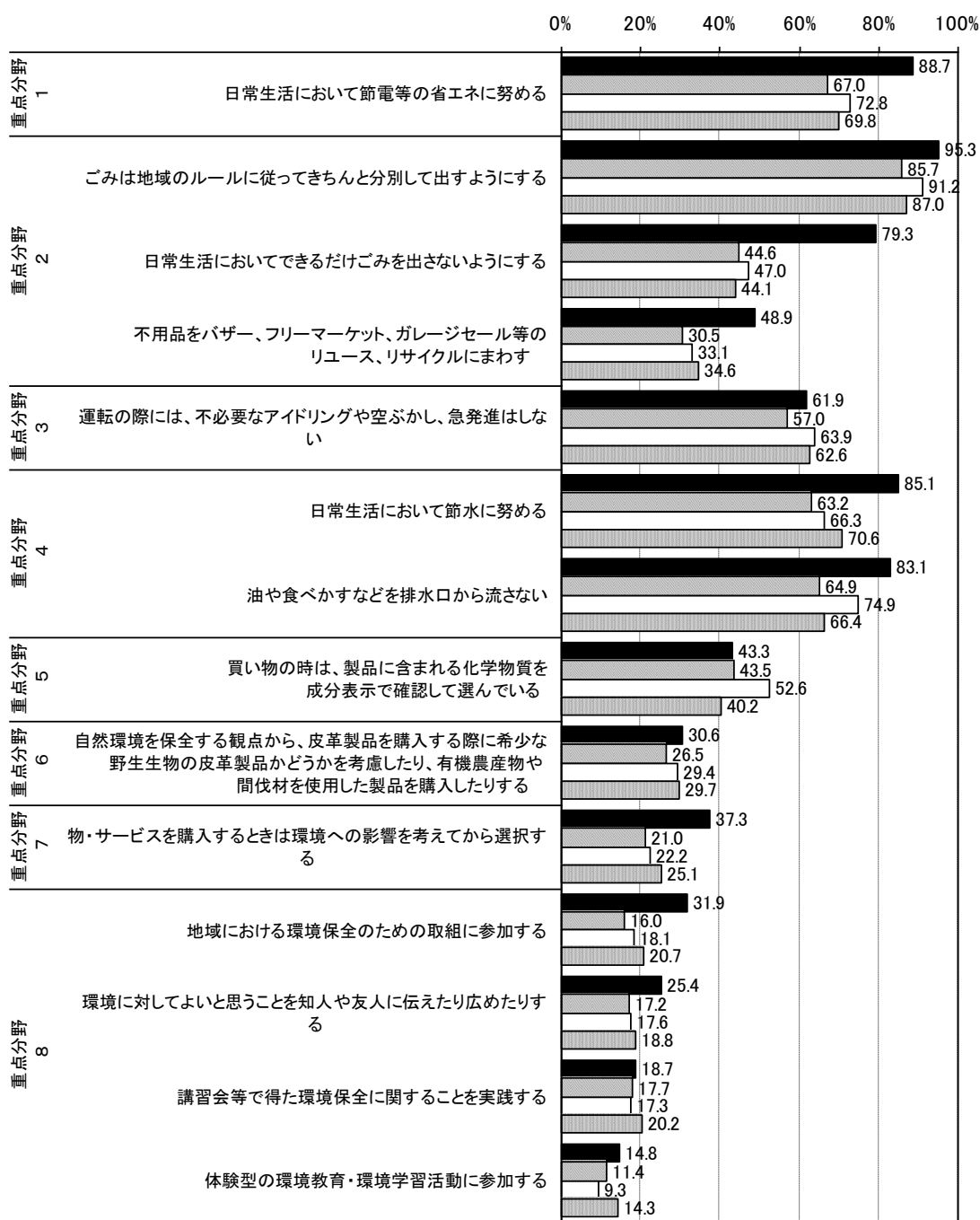
- 「物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択する」 37%

<重点分野8> 環境保全の人づくり・地域づくりの推進

平成20年度調査よりも実施率が約3～15ポイント上昇しているが、実施率が20%未満の項目もあり、重点分野の中でも実施率の低い分野となっている。

- 「地域における環境保全のための取組に参加する」 32%
- 「環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりする」 25%
- 「講習会等で得た環境保全に関することを実践する」 19%
- 「体験型の環境教育・環境学習活動に参加する」 15%

図表 2-36 環境基本計画の重点取組分野ごとの環境保全行動実施状況

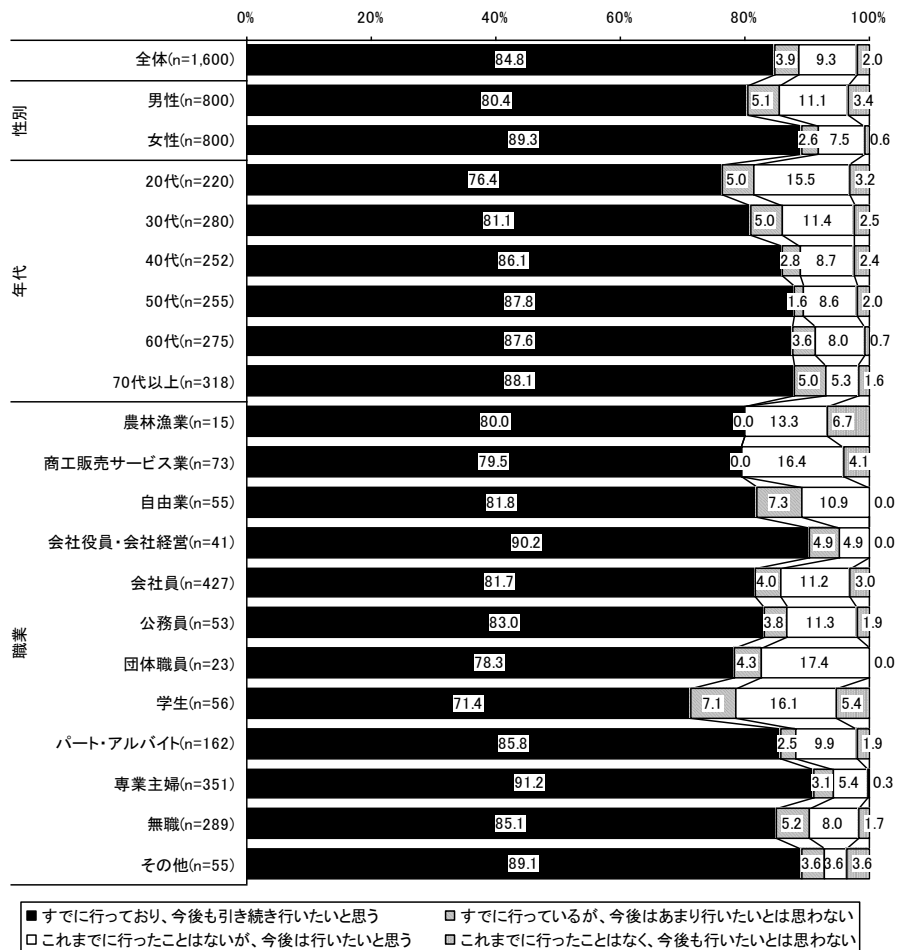


■ 平成21年度(n=1,600) □ 平成20年度(n=2,197) □ 平成19年度(n=1,627) □ 平成18年度(n=1,890)

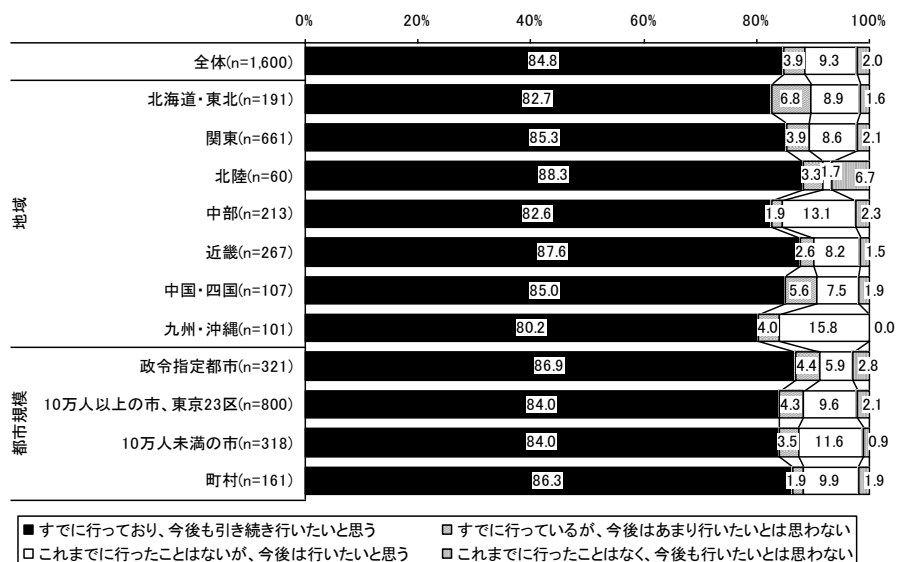
<重点分野1> 地球温暖化問題に対する取組

環境保全行動（1）日常生活において節電等の省エネに努める

図表 2-37 環境保全行動（1）（性別、年代別、職業別）



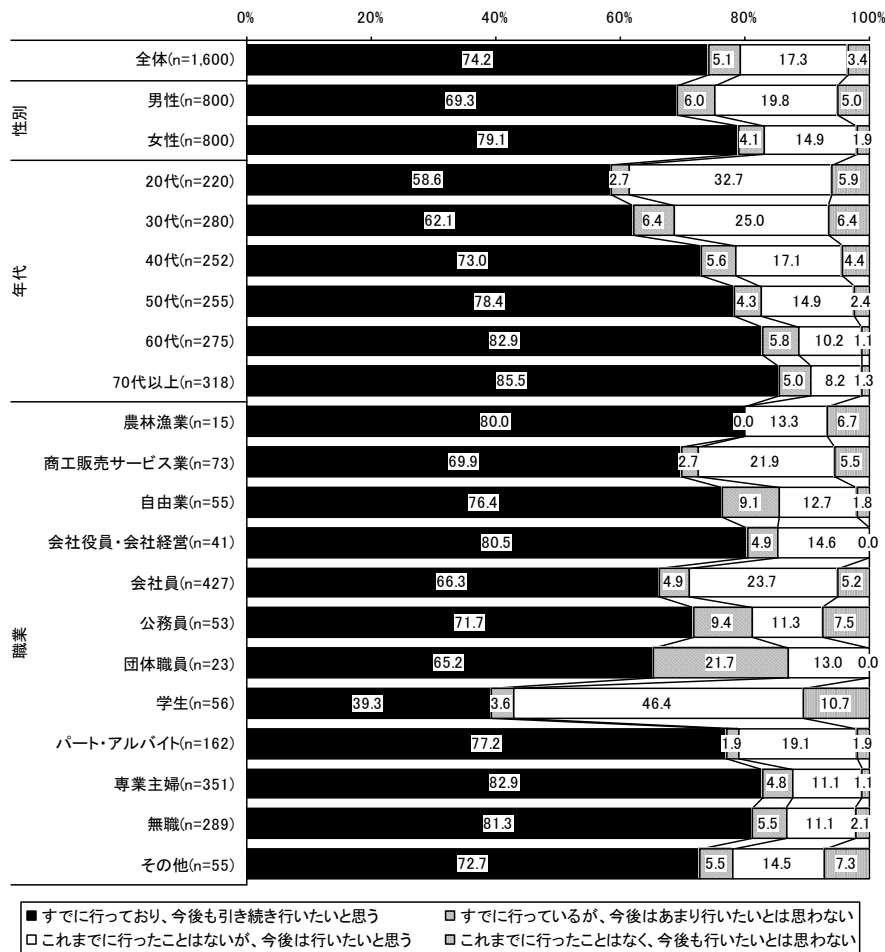
図表 2-38 環境保全行動（1）（地域別、都市規模別）



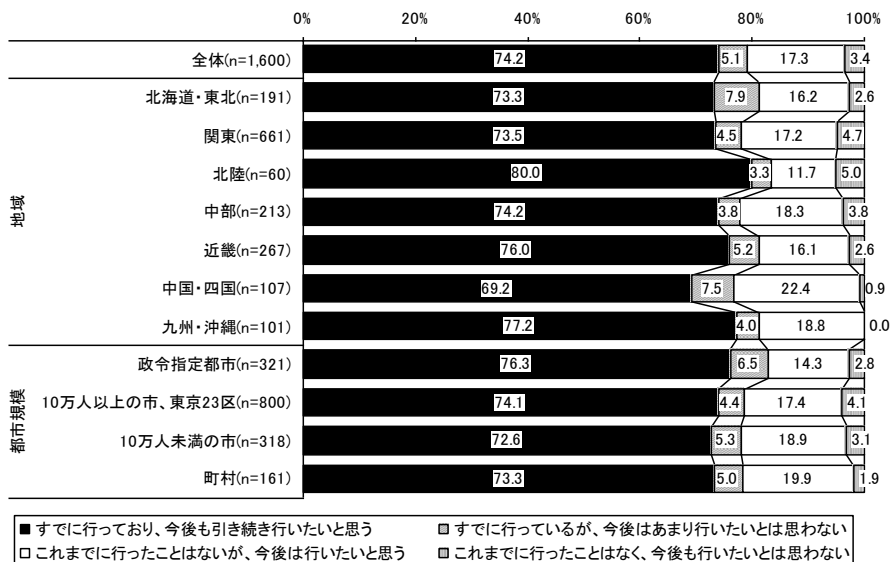
<重点分野2> 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組

環境保全行動（2）日常生活においてできるだけごみを出さないようにする

図表 2-39 環境保全行動（2）（性別、年代別、職業別）



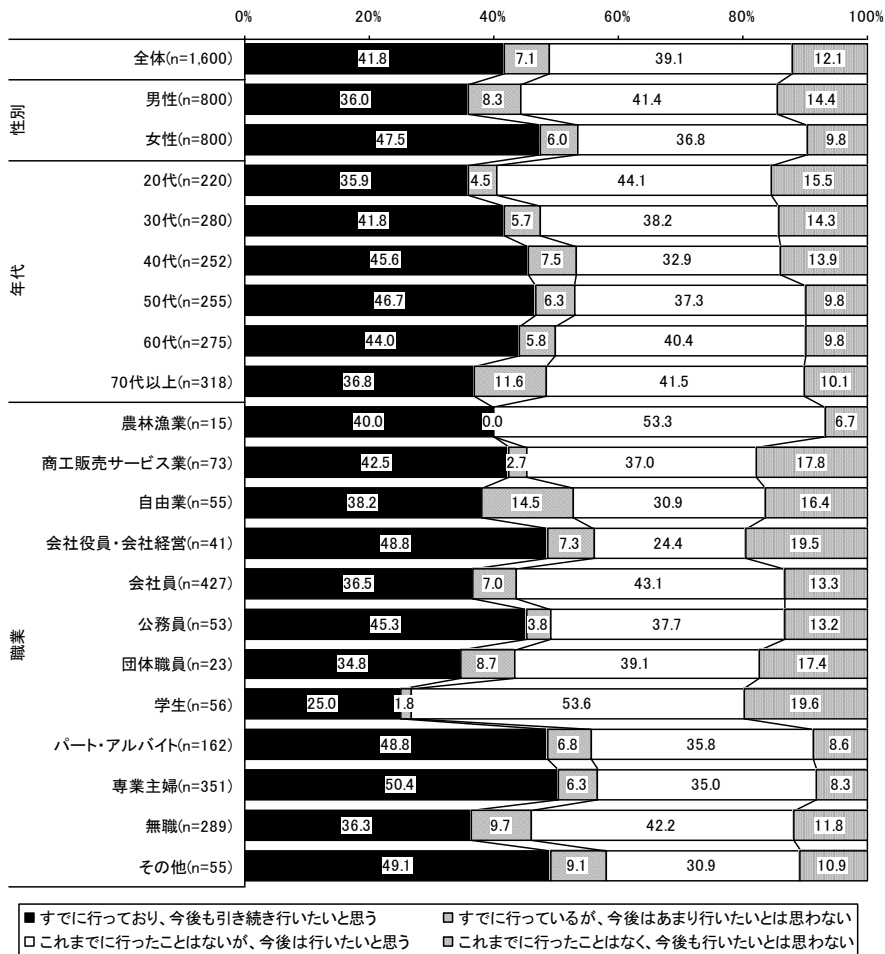
図表 2-40 環境保全行動（2）（地域別、都市規模別）



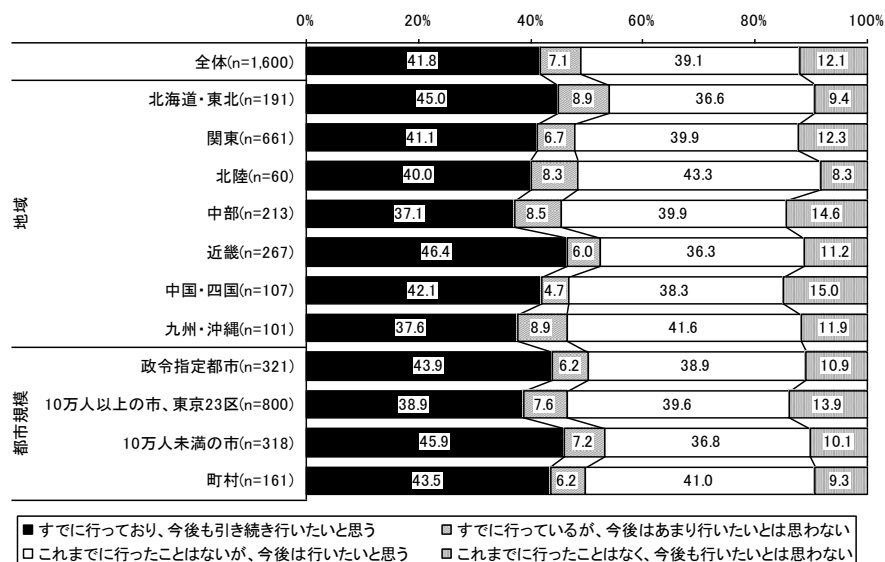
<重点分野2> 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組

環境保全行動（3）不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわす

図表 2-41 環境保全行動（3）（性別、年代別、職業別）



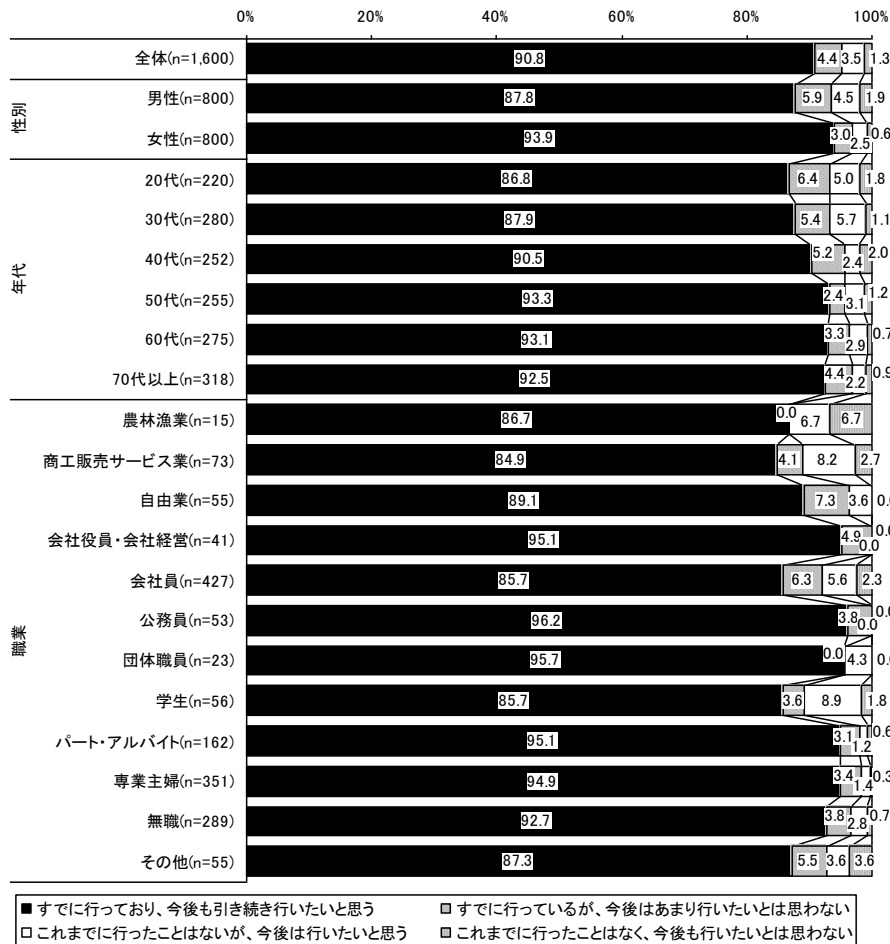
図表 2-42 環境保全行動（3）（地域別、都市規模別）



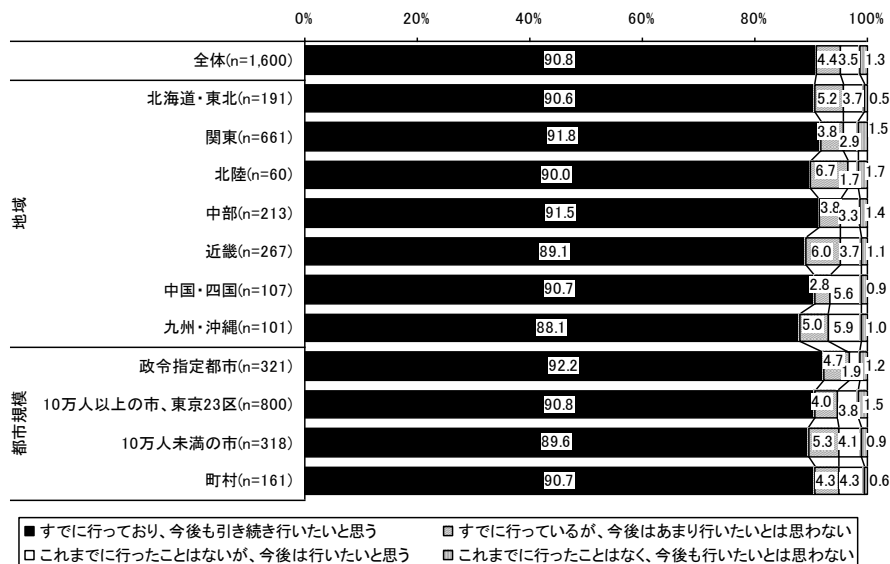
<重点分野2> 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組

環境保全行動（4） ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにする

図表 2-43 環境保全行動（4）（性別、年代別、職業別）



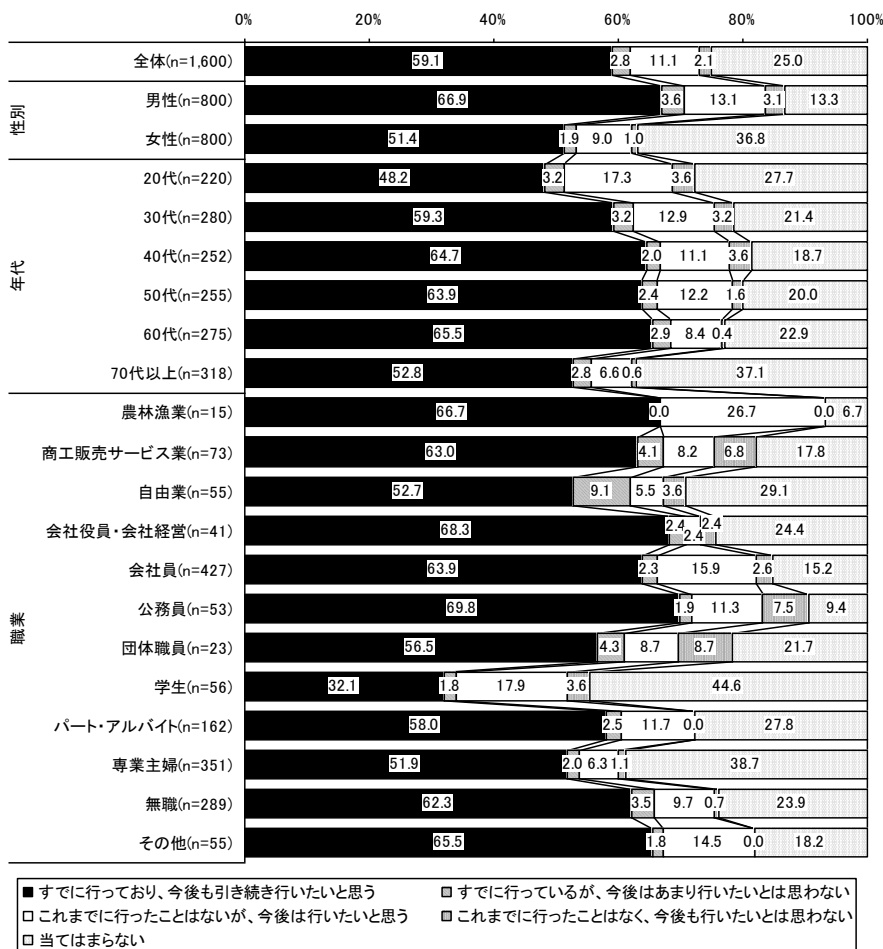
図表 2-44 環境保全行動（4）（地域別、都市規模別）



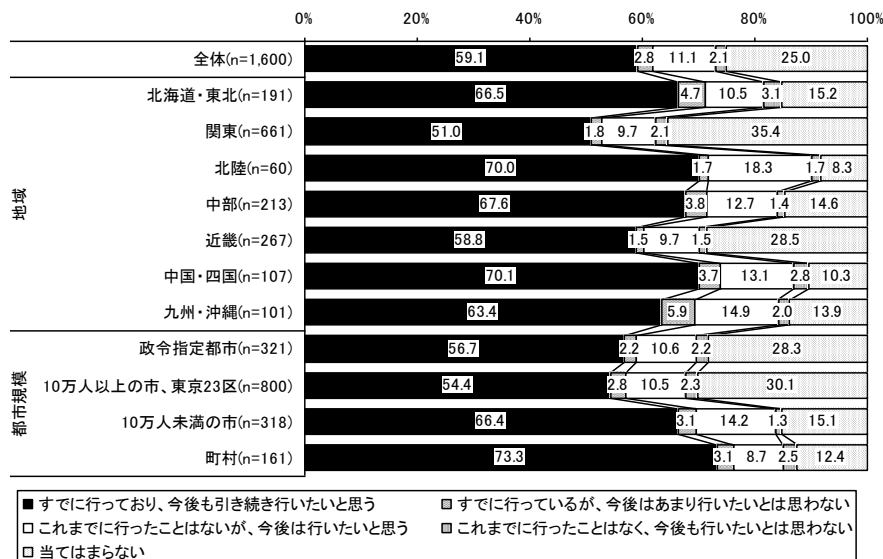
<重点分野3> 都市における良好な大気環境の確保に関する取組

環境保全行動（5）運転の際には、不必要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない

図表 2-45 環境保全行動（5）（性別、年代別、職業別）

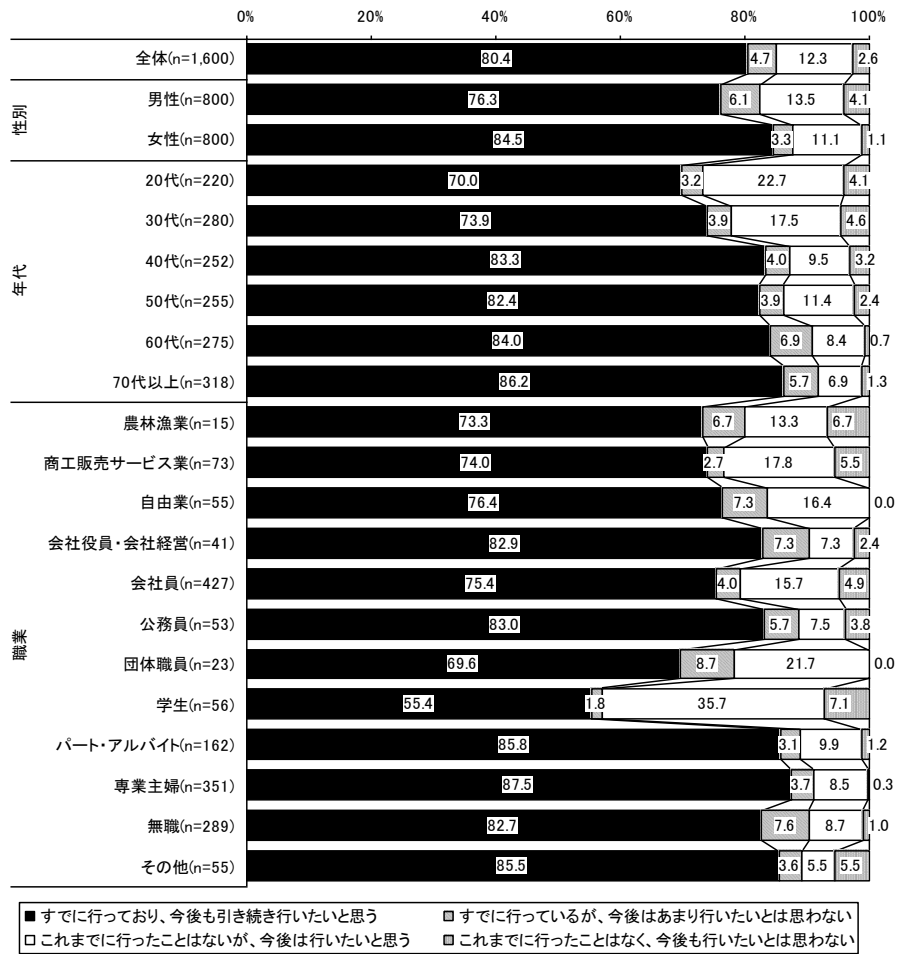


図表 2-46 環境保全行動（5）（地域別、都市規模別）

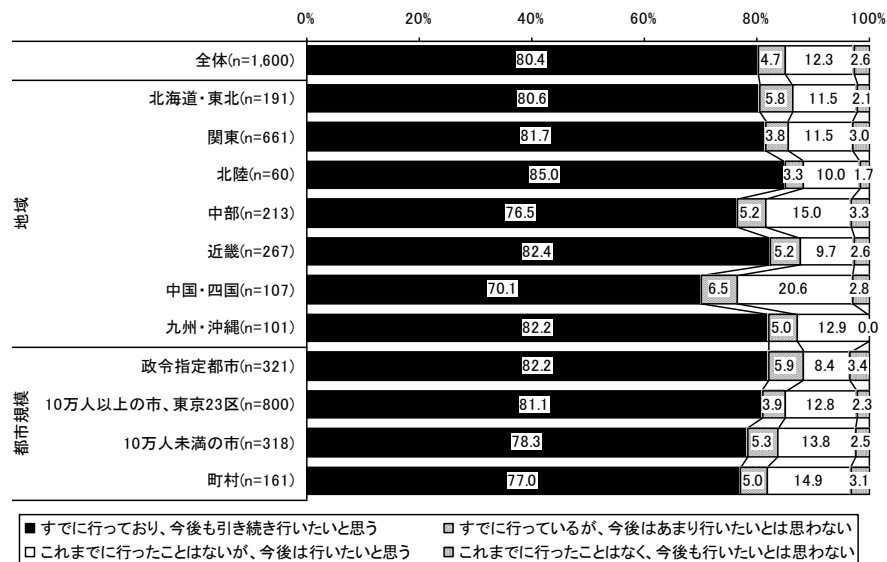


<重点分野4> 環境保全上健全な水循環の確保に向けた取組
環境保全行動(6) 日常生活において節水に努める

図表 2-47 環境保全行動(6) (性別、年代別、職業別)

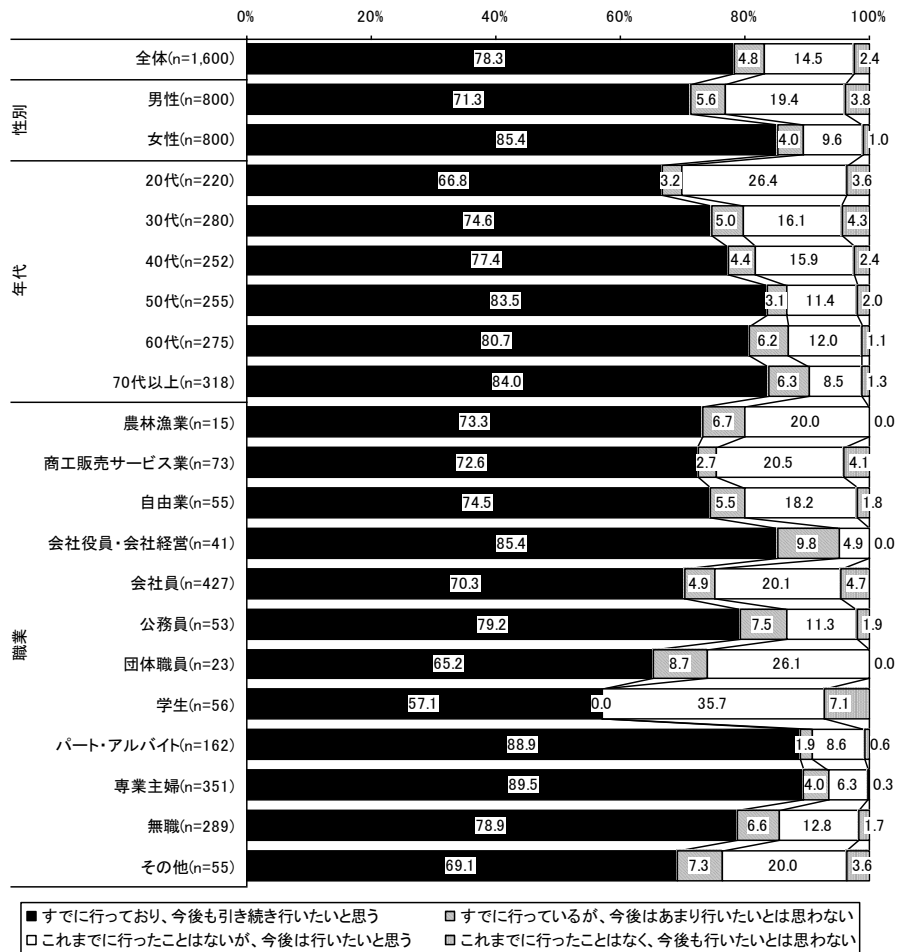


図表 2-48 環境保全行動(6) (地域別、都市規模別)

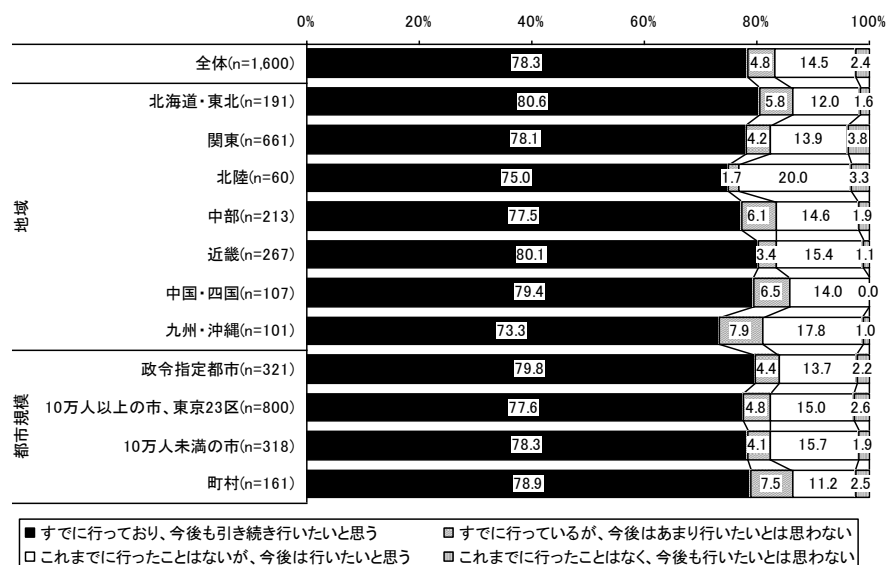


<重点分野4> 環境保全上健全な水循環の確保に向けた取組
環境保全行動（7）油や食べかすなどを排水口から流さない

図表 2-49 環境保全行動（7）（性別、年代別、職業別）



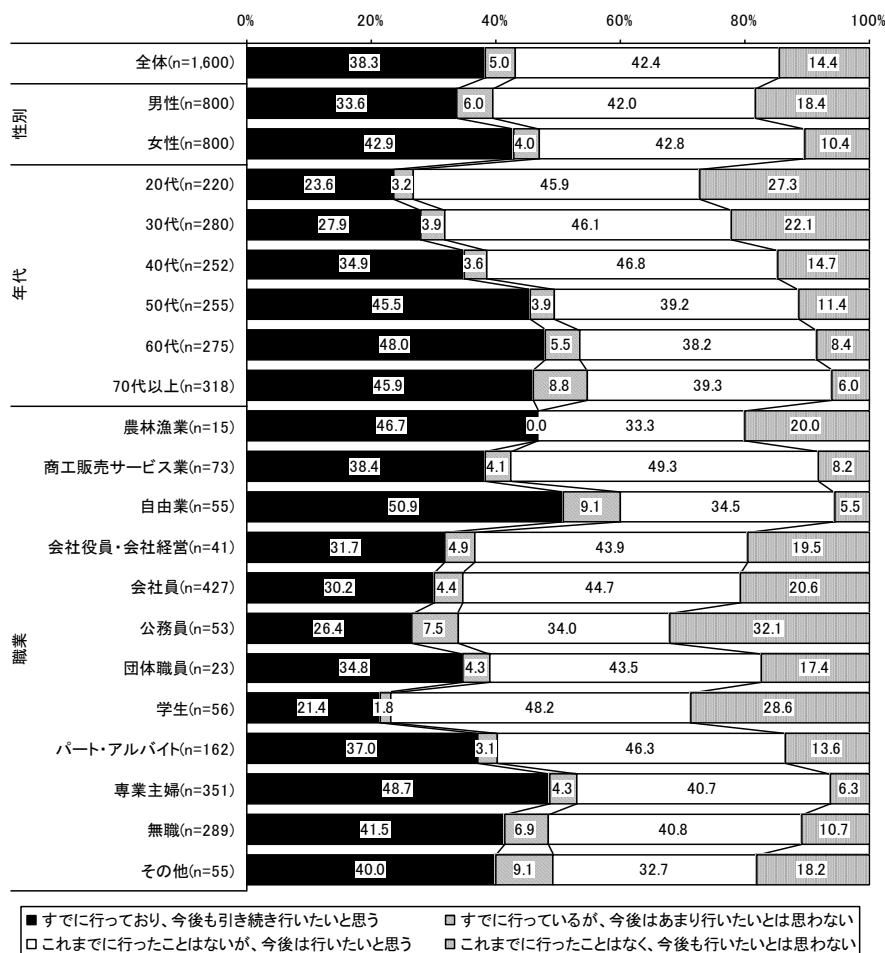
図表 2-50 環境保全行動（7）（地域別、都市規模別）



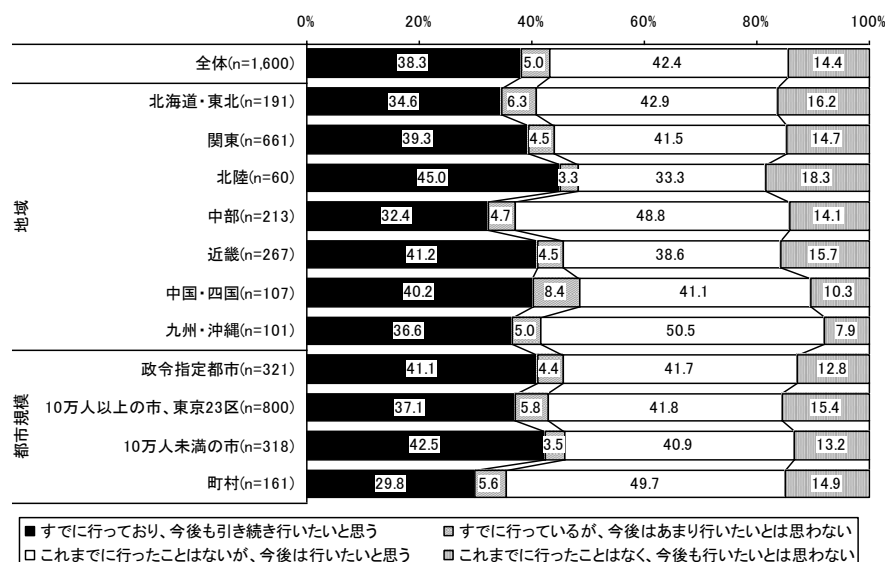
<重点分野5> 化学物質の環境リスクの低減に向けた取組

環境保全行動（8） 買い物の時は、製品に含まれる化学物質を成分表示で確認して選んでいる

図表 2-51 環境保全行動（8）（性別、年代別、職業別）



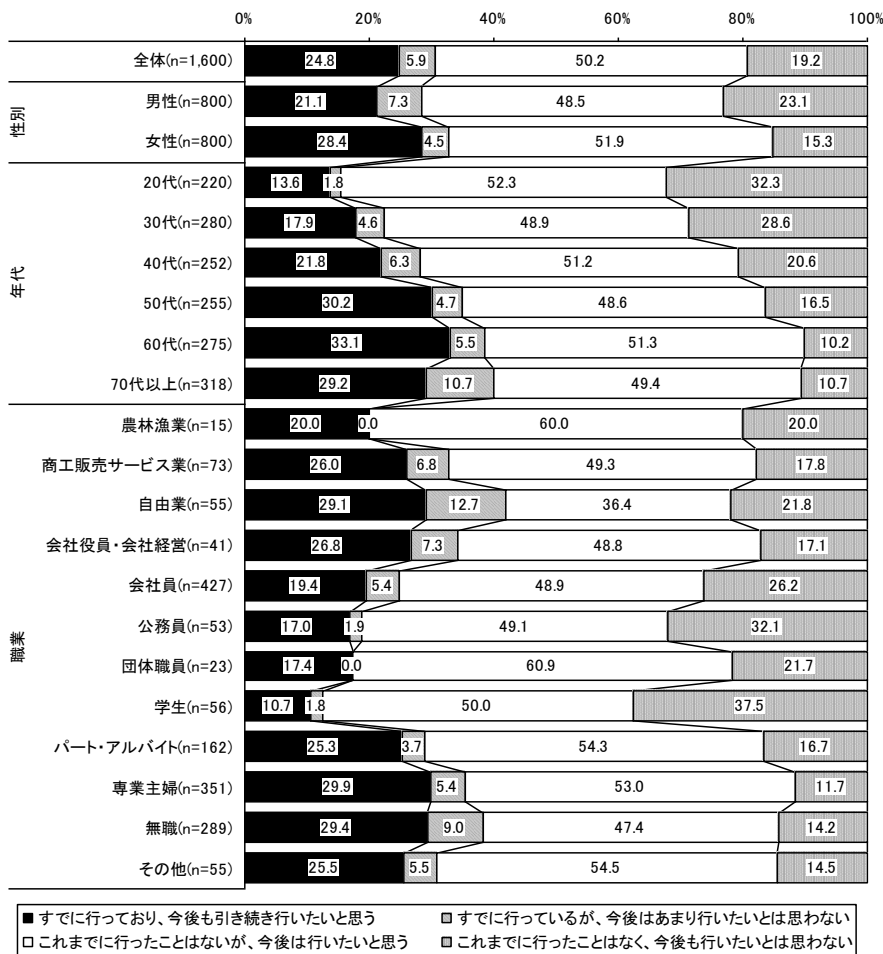
図表 2-52 環境保全行動（8）（地域別、都市規模別）



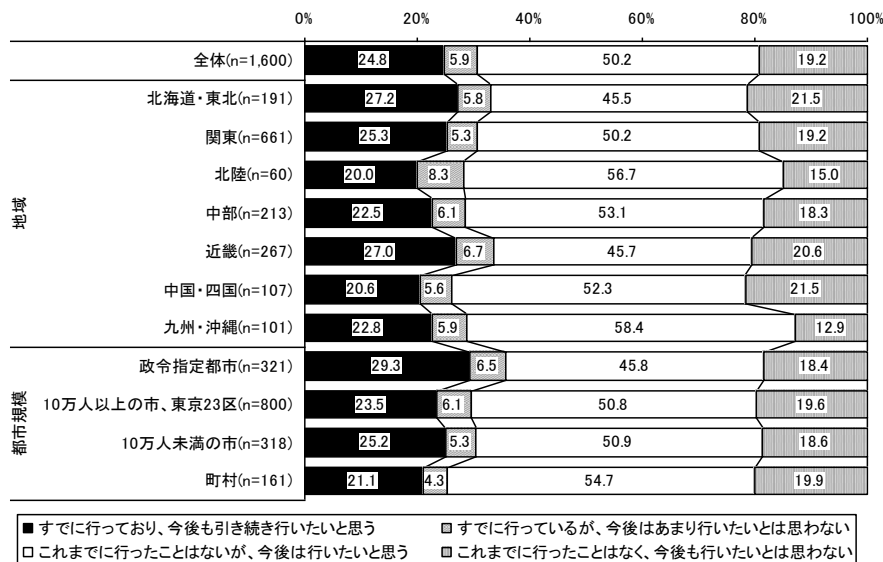
<重点分野6> 生物多様性の保全のための取組

環境保全行動（9）自然環境を保全する観点から、皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりする

図表 2-53 環境保全行動（9）（性別、年代別、職業別）



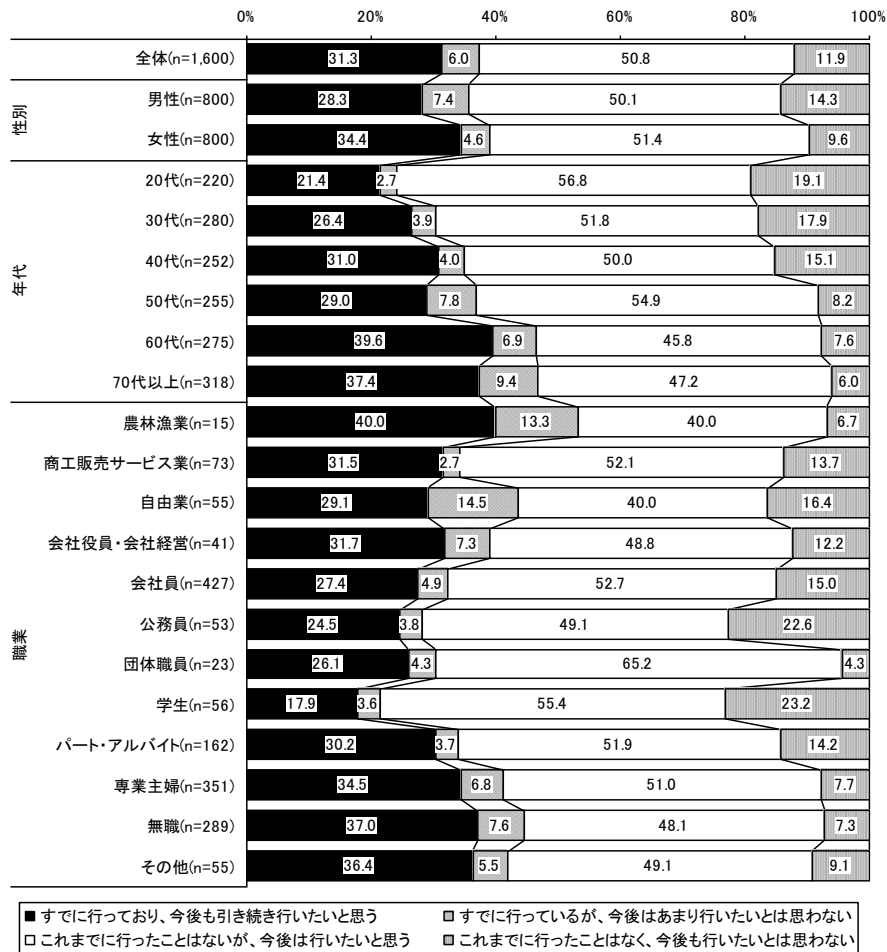
図表 2-54 環境保全行動（9）（地域別、都市規模別）



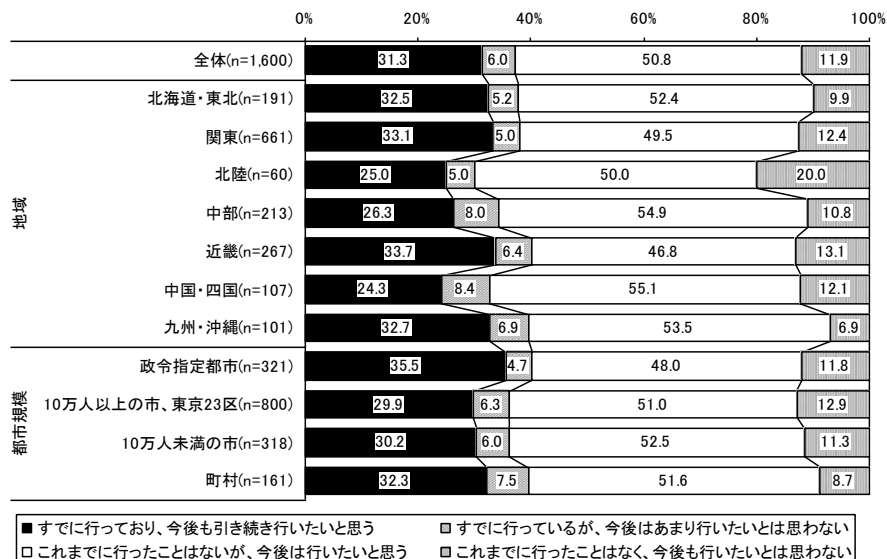
<重点分野7> 市場において環境の価値が積極的に評価される仕組みづくり

環境保全行動（10）物・サービスを購入するときは環境への影響を考慮してから選択する

図表 2-55 環境保全行動（10）（性別、年代別、職業別）



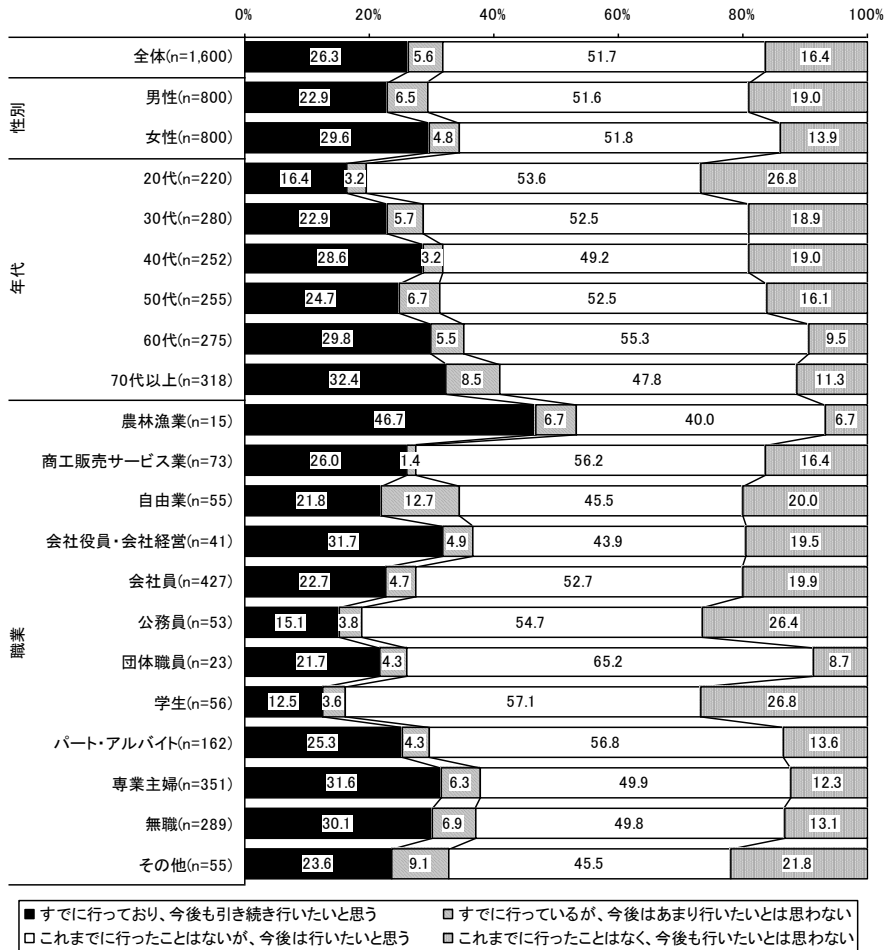
図表 2-56 環境保全行動（10）（地域別、都市規模別）



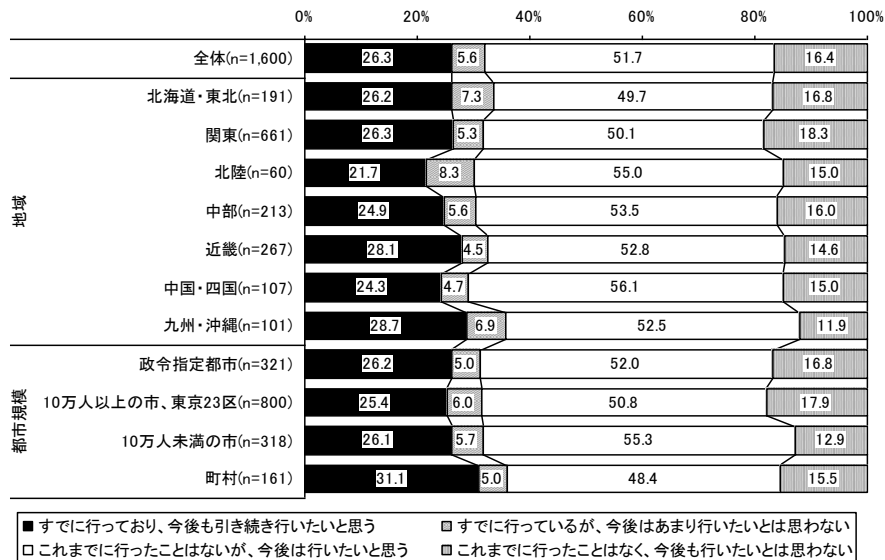
<重点分野8> 環境保全の人づくり・地域づくりの推進

環境保全行動（11）地域における環境保全のための取組に参加する（緑化、美化、自然保護、リサイクル、省エネ、地域の計画策定等）

図表 2-57 環境保全行動（11）（性別、年代別、職業別）



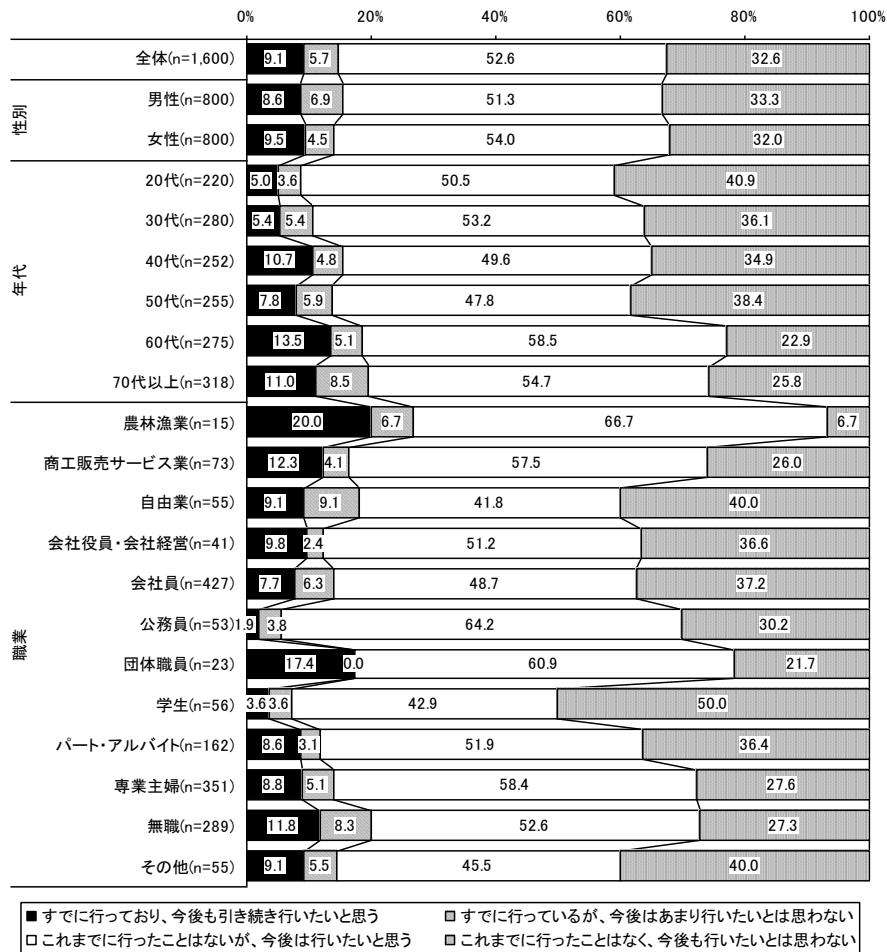
図表 2-58 環境保全行動（11）（地域別、都市規模別）



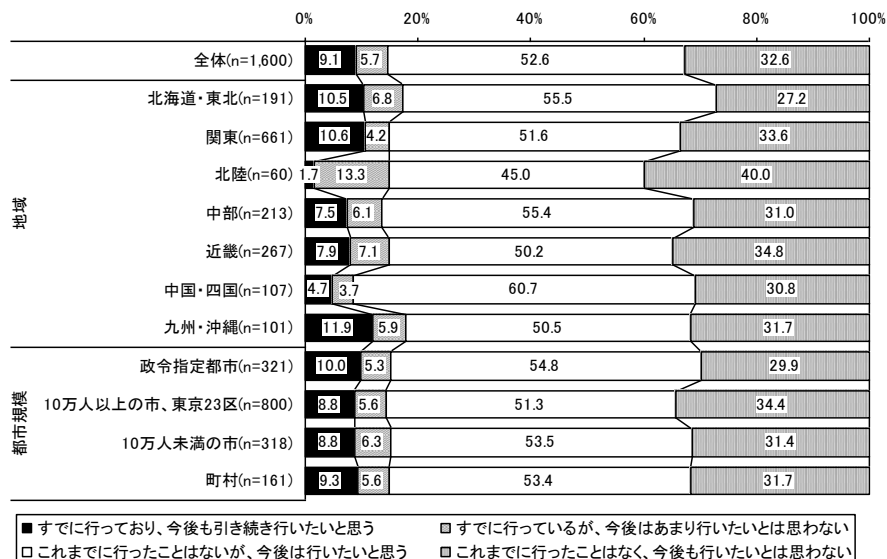
<重点分野8> 環境保全の人づくり・地域づくりの推進

環境保全行動（12）体験型の環境教育・環境学習活動に参加する

図表 2-59 環境保全行動（12）（性別、年代別、職業別）



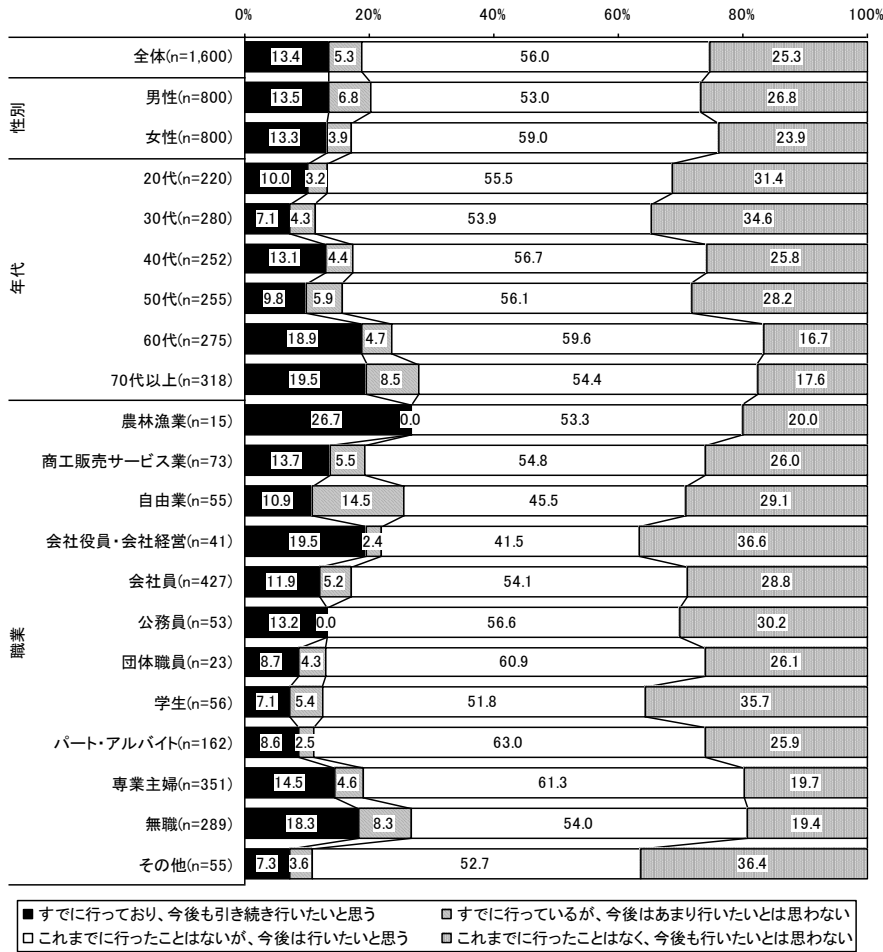
図表 2-60 環境保全行動（12）（地域別、都市規模別）



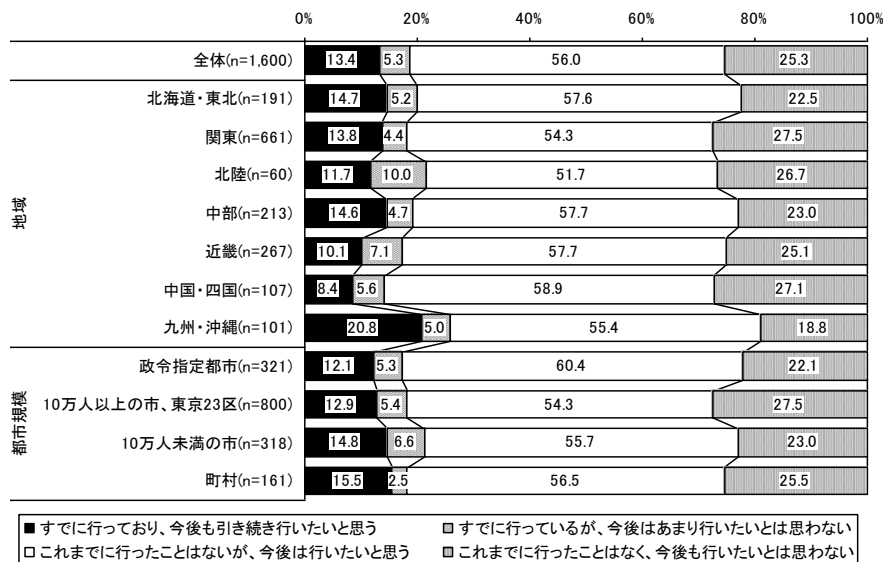
<重点分野8> 環境保全の人づくり・地域づくりの推進

環境保全行動（13）講習会等で得た環境保全に関することを実践する

図表 2-61 環境保全行動（13）（性別、年代別、職業別）



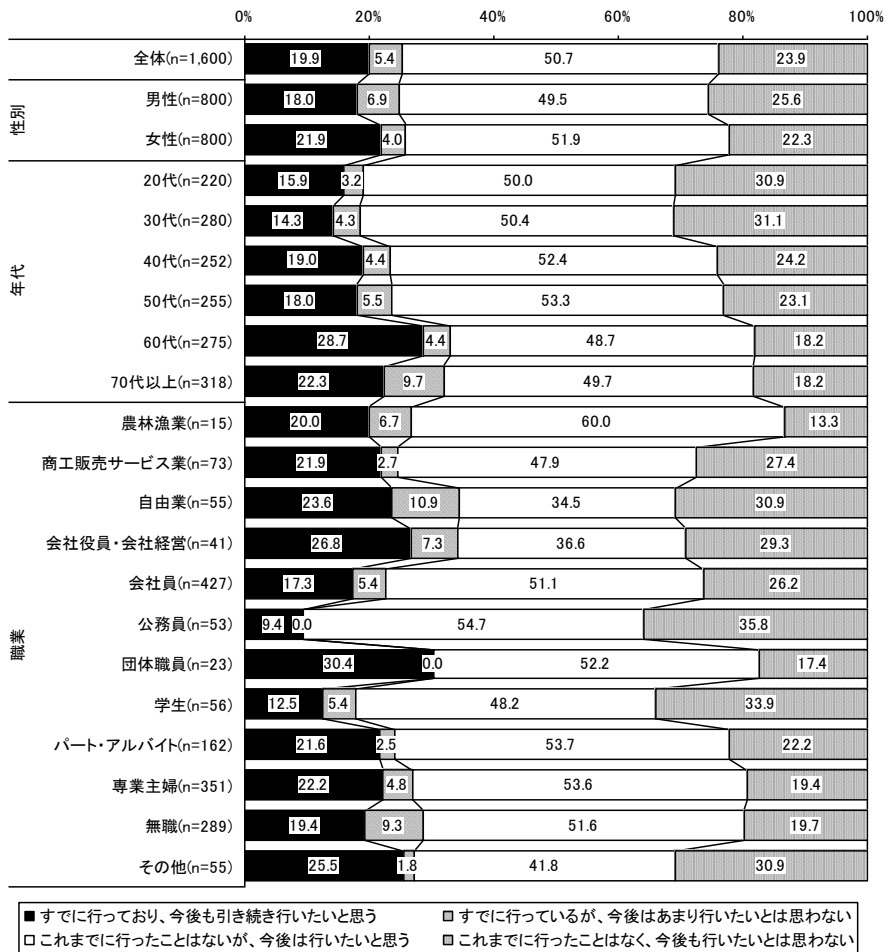
図表 2-62 環境保全行動（13）（地域別、都市規模別）



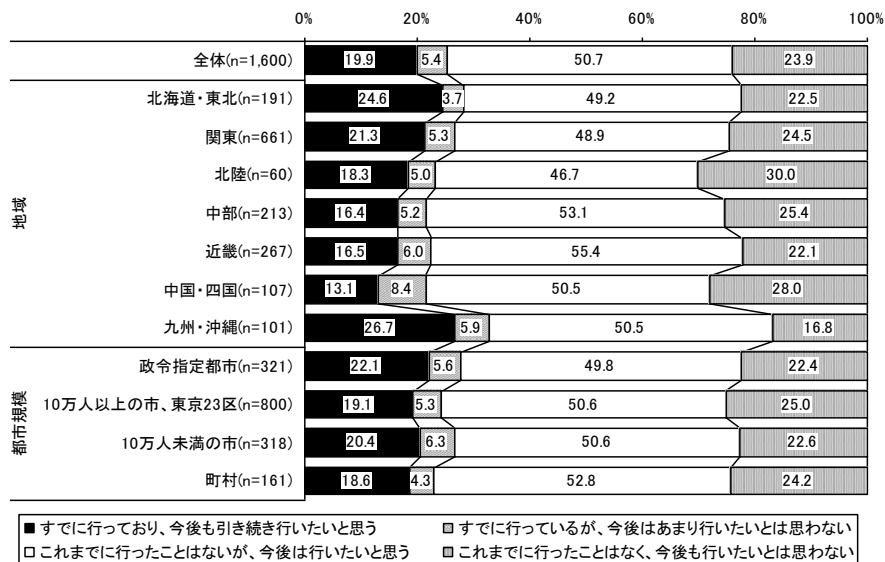
<重点分野8> 環境保全の人づくり・地域づくりの推進

環境保全行動（14）環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりする

図表 2-63 環境保全行動（14）（性別、年代別、職業別）



図表 2-64 環境保全行動（14）（地域別、都市規模別）



2-3 環境保全で最も重要な役割を担う主体(問 2-3)

環境保全で最も重要な役割を担う主体は47%の人が「国民」と回答している。職業別では団体職員、地域別では九州・沖縄が「国民」と回答した割合が高い。

環境保全で最も重要な役割を担う主体として「国民」と回答した割合が47%と最も多く、次いで、「国」25%、「事業者」18%、「地方公共団体」4%となっている。

平成20年度調査と比較すると、「国民」「事業者」「地方公共団体」の回答が増加し、「国」と回答した人は少なくなっている。

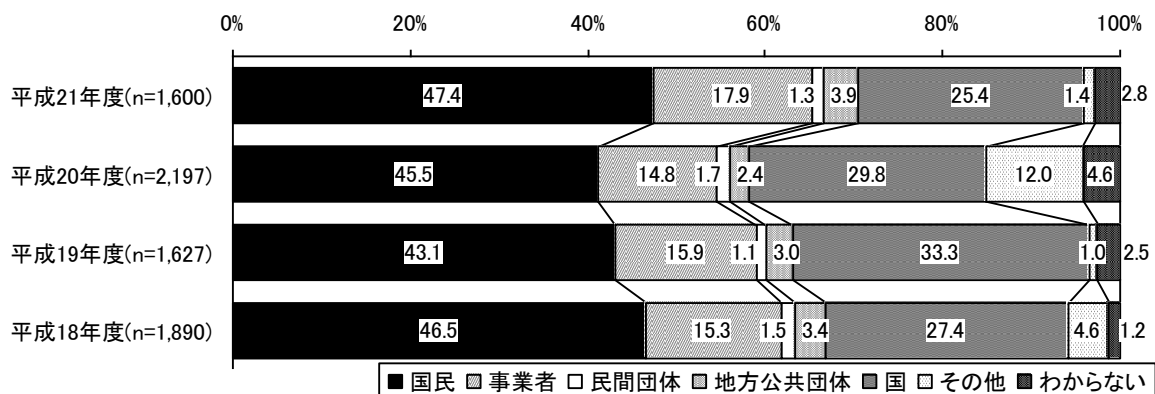
性別、年代別では、大きな差はみられない。

職業別では、団体職員が「国民」と回答した割合が65%と全体よりも18ポイントも高くなっている。また、会社役員・会社経営では「国」と回答した割合が39%と全体よりも14ポイント高くなっており、団体職員、会社役員・会社経営ともに「事業者」と回答した割合が5%未満となっている。

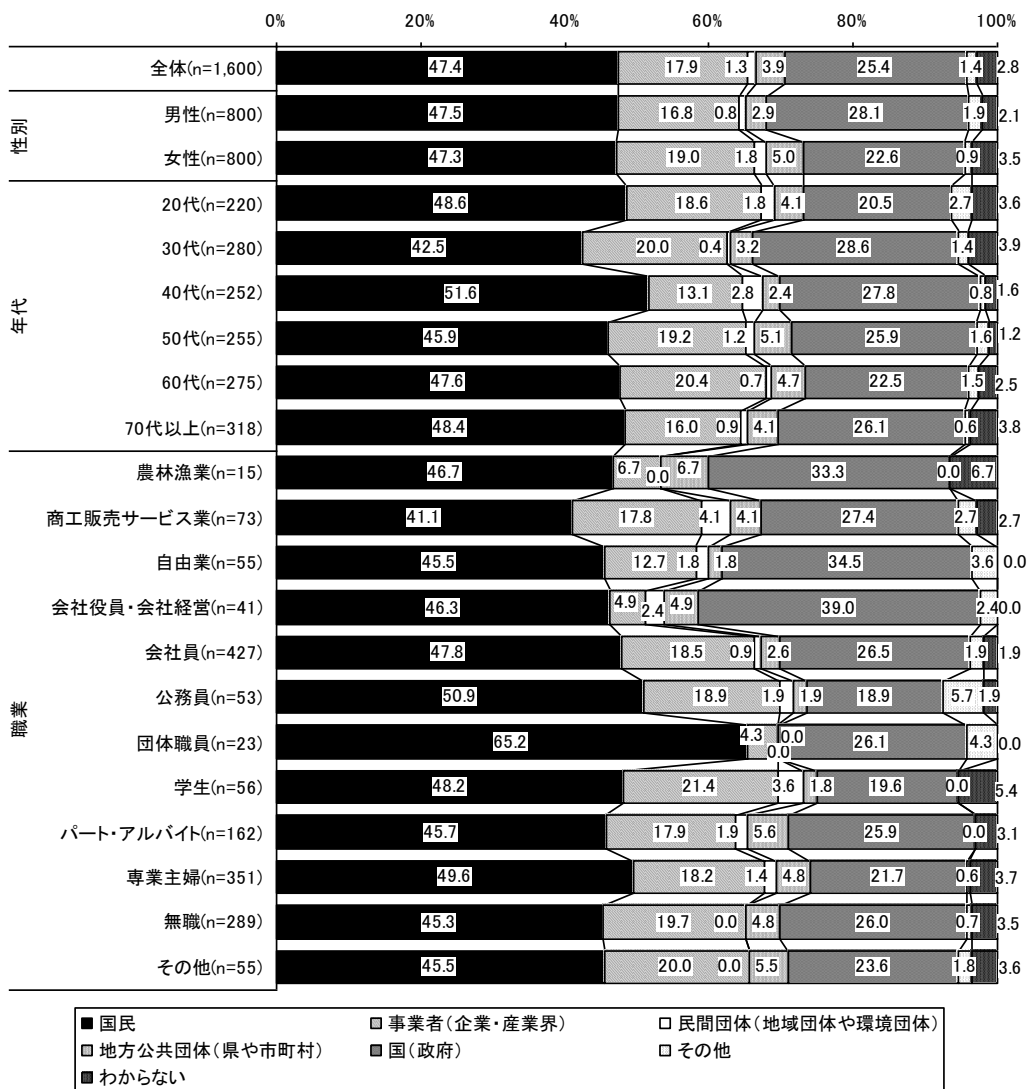
地域別でみると、九州・沖縄では「国民」と回答した割合が59%と全体よりも10ポイント以上高く、「事業者」、「国」と回答した人の割合は全体よりも5ポイント以上低くなっている。中部、近畿でも「国民」と回答した割合が比較的高くなっている。

都市規模別でみると、町村では「事業者」と回答した人が25%と全体よりも5ポイント以上高くなっており、「国」と回答した人の割合よりも高くなっている。

図表 2-65 環境保全で最も重要な役割を担う主体 (時系列)



図表 2-66 環境保全で最も重要な役割を担う主体（性別、年代別、職業別）



図表 2-67 環境保全で最も重要な役割を担う主体（地域別、都市規模別）

